

久米南町町民意識調査結果

第3次久米南町男女共同参画基本計画

令和3年10月

久米南町

目次

I	調査概要	3
1	調査の概要	3
	(1) 調査目的	3
	(2) 調査対象及び調査方法	3
	(3) 回収結果	3
2	本調査報告書の基本的な事項	4
	(1) 数値の基本的な取り扱いについて	4
II	回答者の属性	7
1	あなたご自身のことについて	7
	(1) 性別	7
	(2) 年齢	7
	(3) 現在の婚姻状況	8
	(4) 子どもの有無	8
	(5) 世帯構成	8
	(6) 居住地区	9
	(7) 居住歴	9
	(8) 居住年数	10
	(9) 職業	10
III	調査結果	13
1	男女共同参画の考え方・感じ方について	13
	(1) 男女の役割	13
	(2) 男女の平等	14
2	家庭における男女平等について	16
	(1) 家庭の仕事	16
	(2) 子育てや家事に参加	20
3	就労における男女平等について	23
	(1) 職業	23
	(2) 職場	25
4	仕事と家庭のバランスについて	28
	(1) 退職、転職の理由	28
	(2) 仕事と家庭の両立	29
5	セクシュアル・ハラスメント、DVIについて	30
	(1) セクシュアル・ハラスメント	30

(2) DV(ドメスティック・バイオレンス)	32
(3) 相談	34
6 男女共同参画に関する行政施策等について	36
(1) 男女共同参画に関する行政施策	36

IV 自由記述 41

自由記述一覧	41
(1) 現状に関する事	41
(2) 課題についての意見	41
(3) 提言内容	41

V 資料 45

調査票	45
-----------	----

I 調査概要

I 調査概要

I 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、令和4年度から始まる「第3次久米南町男女共同参画基本計画」の策定にあたり、本町にお住まいの方を対象に、町民皆さまの男女の性別に関する意識、ニーズ、男女共同における課題を把握するため、ご意見をお伺いし、計画策定の基礎資料とするために、また、住民の皆様の声を計画策定に反映するため実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	久米南町にお住まいの16歳以上の町民
配布数	1,000
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法(郵送による配布・回収)
調査時期	令和3年7月2日~7月18日
調査地域	町内全域

(3) 回収結果

配布数	1,000		
回収数	390	回収率	39.0%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。
- ②基数となるべき実数(回答者数)は、“N=〇〇〇”として掲載し、各比率はNを100%として算出しています。
- ③複数回答の設問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い設問であることから、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④文中、グラフ中の選択肢の文言は、一部簡略化して表現している場合があります。
- ⑤調査対象者の属性については、調査票記入時点の年齢(2021年7月)で集計してあります。
- ⑥調査概要の前回調査については「第2次くめなん男女共同参画社会推進プラン」掲載の「男女共同参画に関する意識調査(H27年)」を参考とし、今回調査と比較するための集計調整をしていますので、前回調査と数値の誤差が生じているものもあります。

II 回答者の属性

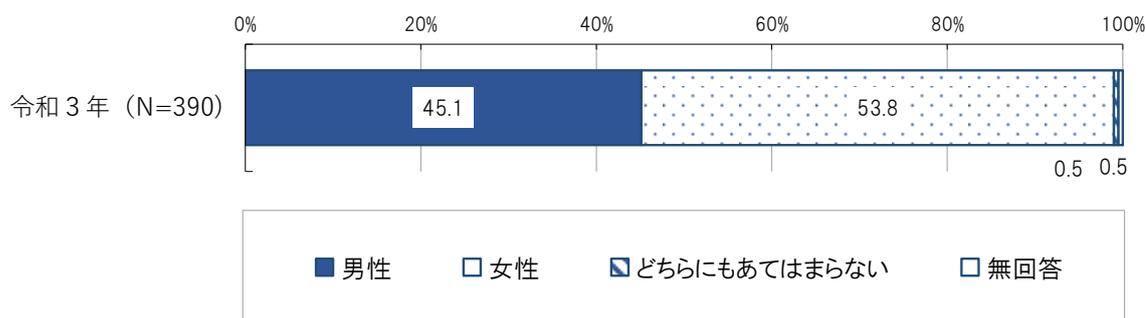
II 回答者の属性

1 あなたご自身のことについて

問1 あなたご自身のことについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで1つに○印をつけてください。

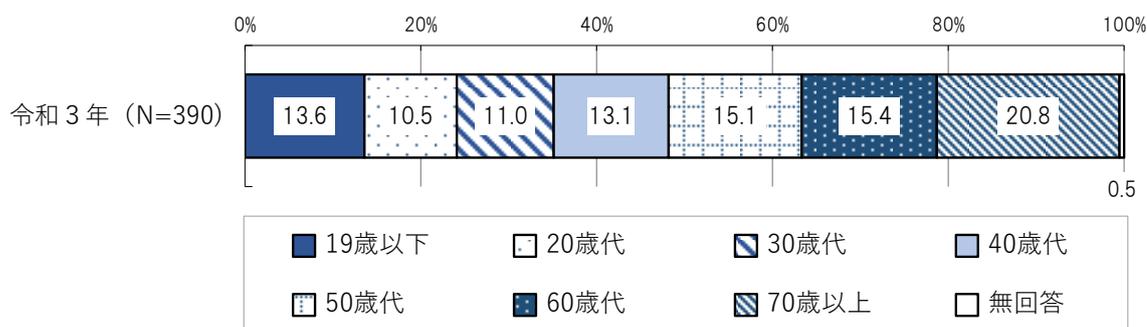
(1) 性別

回答者の性別構成については、「女性」が53.8%、「男性」が45.1%となっています。



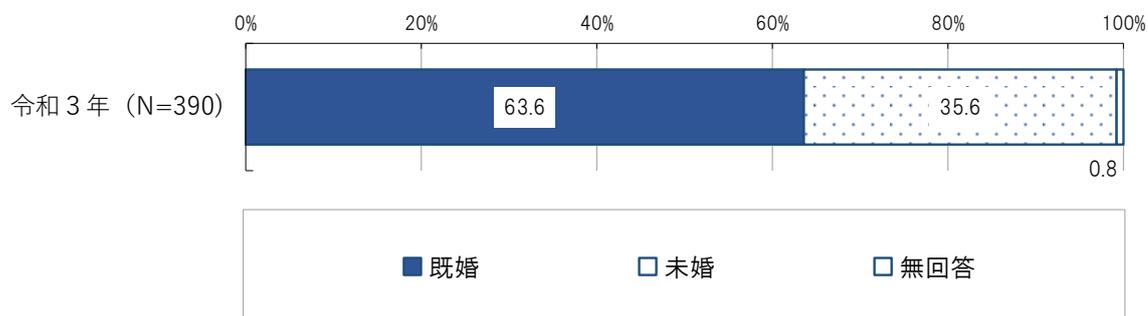
(2) 年齢

回答者の年齢構成については、「70歳以上」が20.8%と最も多く、次いで「60歳代」(15.4%)、「50歳代」(15.1%)、「19歳以下」(13.6%)、「40歳代」(13.1%)、「30歳代」(11.0%)、「20歳代」(10.5%)の順となっています。



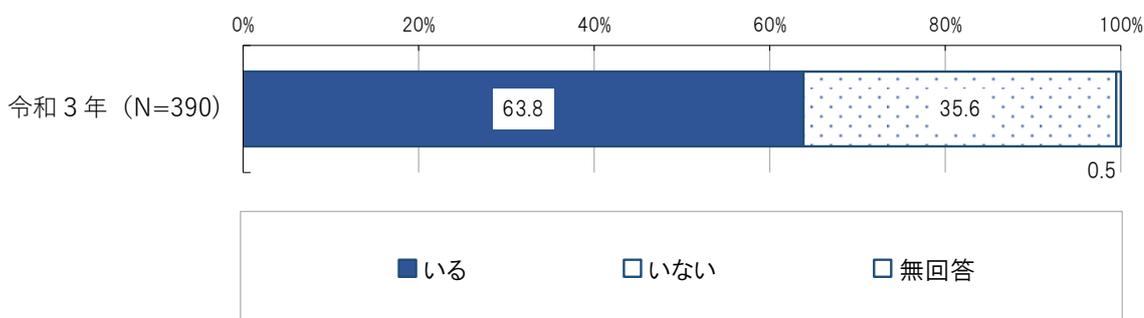
(3) 現在の婚姻状況

回答者の婚姻状況については、「既婚」が63.6%、「未婚」が35.6%となっています。



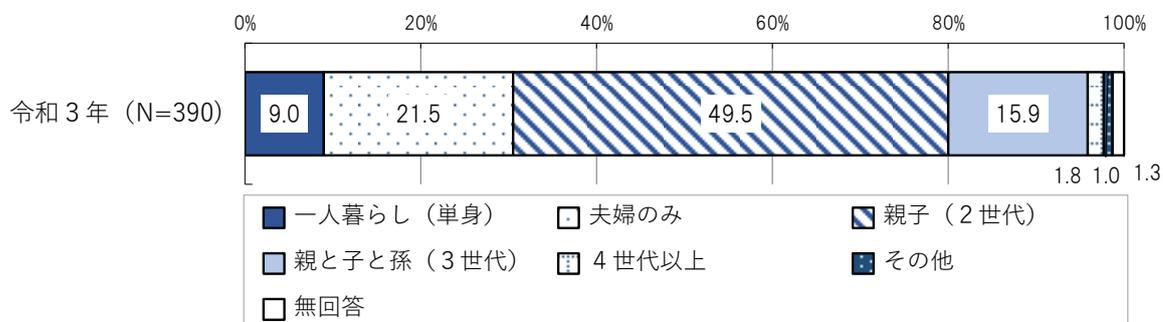
(4) 子どもの有無

回答者の子どもの有無については、「いる」が63.8%、「いない」が35.6%となっています。



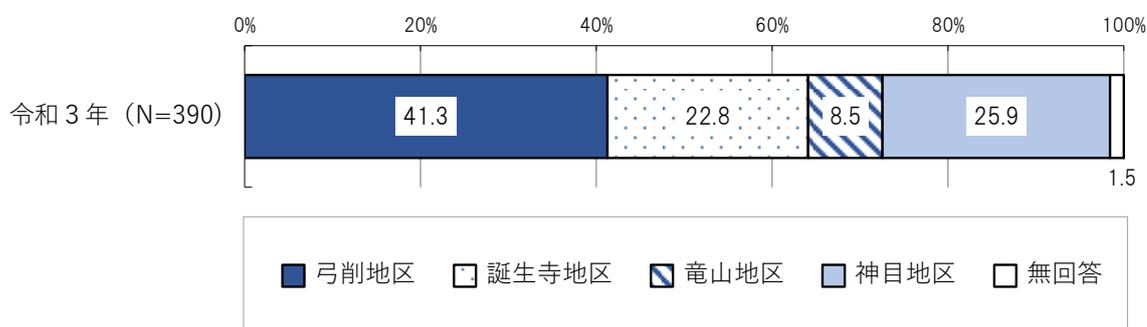
(5) 世帯構成

回答者の世帯構成については、「親子（2世代）」が49.5%と最も多く、次いで「夫婦のみ」（21.5%）、「親と子と孫（3世代）」（15.9%）などの順となっており、「一人暮らし（単身）」が9.0%となっています。



(6) 居住地区

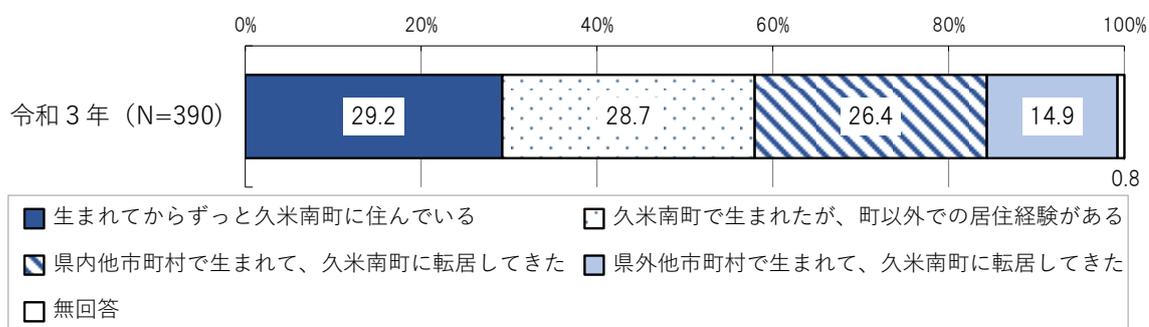
回答者の居住地区については、「弓削地区」が41.3%と最も多く、次いで「神目地区」(25.9%)、「誕生寺地区」(22.8%)、「竜山地区」(8.5%)の順となっています。



(7) 居住歴

回答者の居住歴については、「生まれてからずっと久米南町に住んでいる」が29.2%と最も多く、次いで「久米南町で生まれたが、町以外での居住経験がある」(28.7%)、「県内他市町村で生まれて、久米南町に転居してきた」(26.4%)、「県外他市町村で生まれて、久米南町に転居してきた」(14.9%)の順となっています。

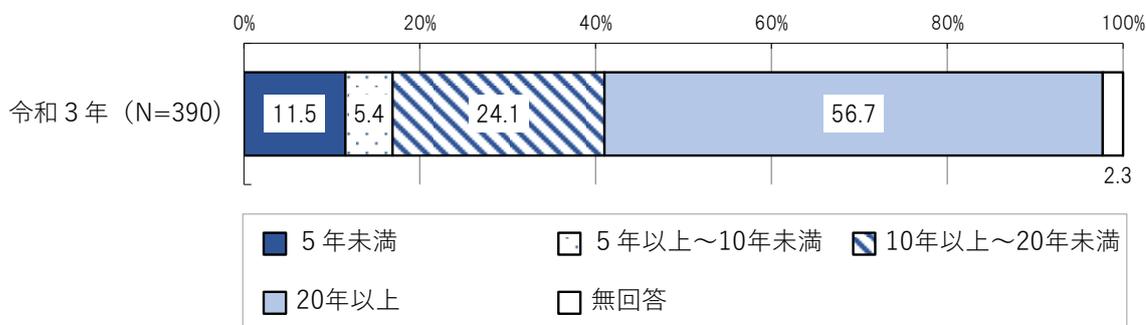
移住の側面では、Uターンである「久米南町で生まれたが、町以外での居住経験がある」が約3割、Iターンである「県内他市町村で生まれて、久米南町に転居してきた」と「県外他市町村で生まれて、久米南町に転居してきた」では約4割になり、移住者が多い傾向がみられます。



(8) 居住年数

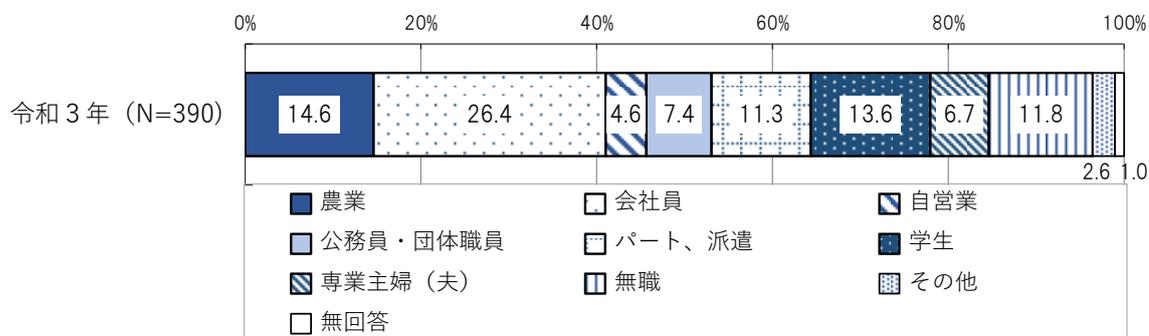
回答者の居住年数については、「20年以上」が56.7%と最も多く、次いで「10年以上20年未満」(24.1%)、「5年未満」(11.5%)、「5年以上～10年未満」(5.4%)の順となっています。

移住者が多いことから、比較的居住年数の少ない人が多い傾向がみえます。



(9) 職業

回答者の職業については、「会社員」が26.4%と最も多く、次いで「農業」(14.6%)、「学生」(13.6%)、「無職」(11.8%)、「パート、派遣」(11.3%)、「公務員・団体職員」(7.4%)、「専業主婦(夫)」(6.7%)、「自営業」(4.6%)、「その他」(2.6%)の順となっています。



Ⅲ 調査結果

Ⅲ 調査結果

1 男女共同参画の考え方・感じ方について

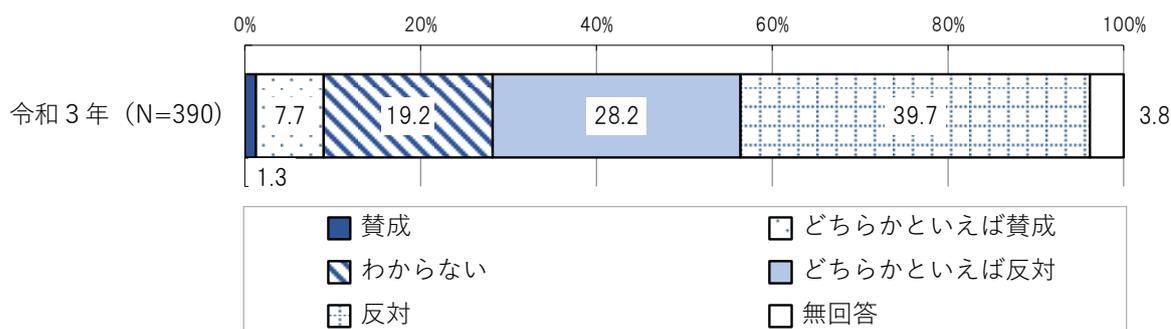
(1) 男女の役割

問7 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。
(1つに○印)

「反対」(39.7%)が第1位。次いで「どちらかといえば反対」(28.2%)、「わからない」(19.2%)の順

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、第1位が「反対」(39.7%)、次いで「どちらかといえば反対」(28.2%)となっており、あわせて67.9%となっています。

一方、「賛成」が1.3%となっており、「どちらかといえば賛成」(7.7%)とあわせて9.0%となっています。



(2) 男女の平等

問8 (I)～(VI)の各分野で男女が平等になっていると感じますか。
((I)～(VI)の、それぞれの分野ごとに1つずつに○印)

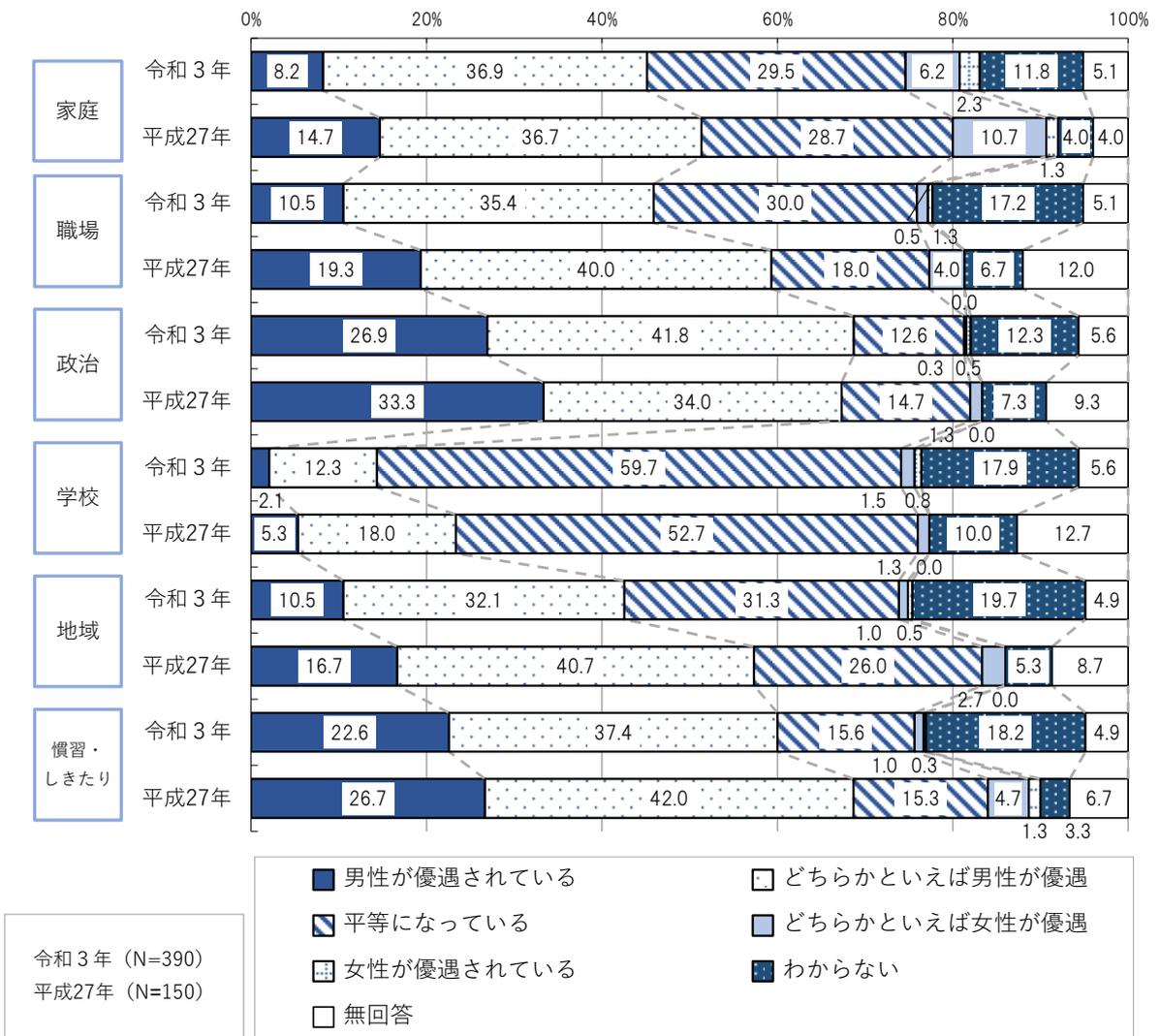
「平等になっている」では最も高かった分野は「学校」(59.7%)、最も低かった分野は「政治」(12.6%)

「平等になっている」と感じている分野は、第1位が「学校」(59.7%)、次いで「地域」(31.3%)、「職場」(30.0%)、「家庭」(29.5%)などの順となっています。一方、平等を感じていることが最も低い分野が「政治」(12.6%)、次いで「慣習・しきたり」(15.6%)となっています。

また、男性もしくは女性の優遇性については、「男性が優遇されている」では「政治」(26.9%)と「慣習・しきたり」(22.6%)が高くなっており、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇」をあわせた男性の優遇性は「学校」(14.4%)以外の全分野で4割を超えており、女性の優遇性が高い分野はほとんどない状況となっています。

[前回調査との比較]

「男性が優遇されている」では全体的に前回よりの減少がみられ、中でも「職場」が 8.8 ポイント減少しています。一方、「平等になっている」では「職場」が 12.0 ポイント、「学校」が 7.0 ポイントと増加しています。また、「わからない」では「慣習・しきたり」が 14.9 ポイント、「地域」が 14.4 ポイントと増加しています。



2 家庭における男女平等について

(1) 家庭の仕事

問9-A あなたの家庭では現在、(I)～(VII)の「家庭の仕事」は男女のどちらが主に担当していますか。(I)～(VII)の、それぞれの項目ごとに1つずつに○印)

「主として男性」の仕事は、「生活費を得る」(27.4%)と「地域活動への参加」(18.7%)。「主として女性」の仕事は、掃除や洗濯、食事関連、子どもの世話など家事全般が非常に高い

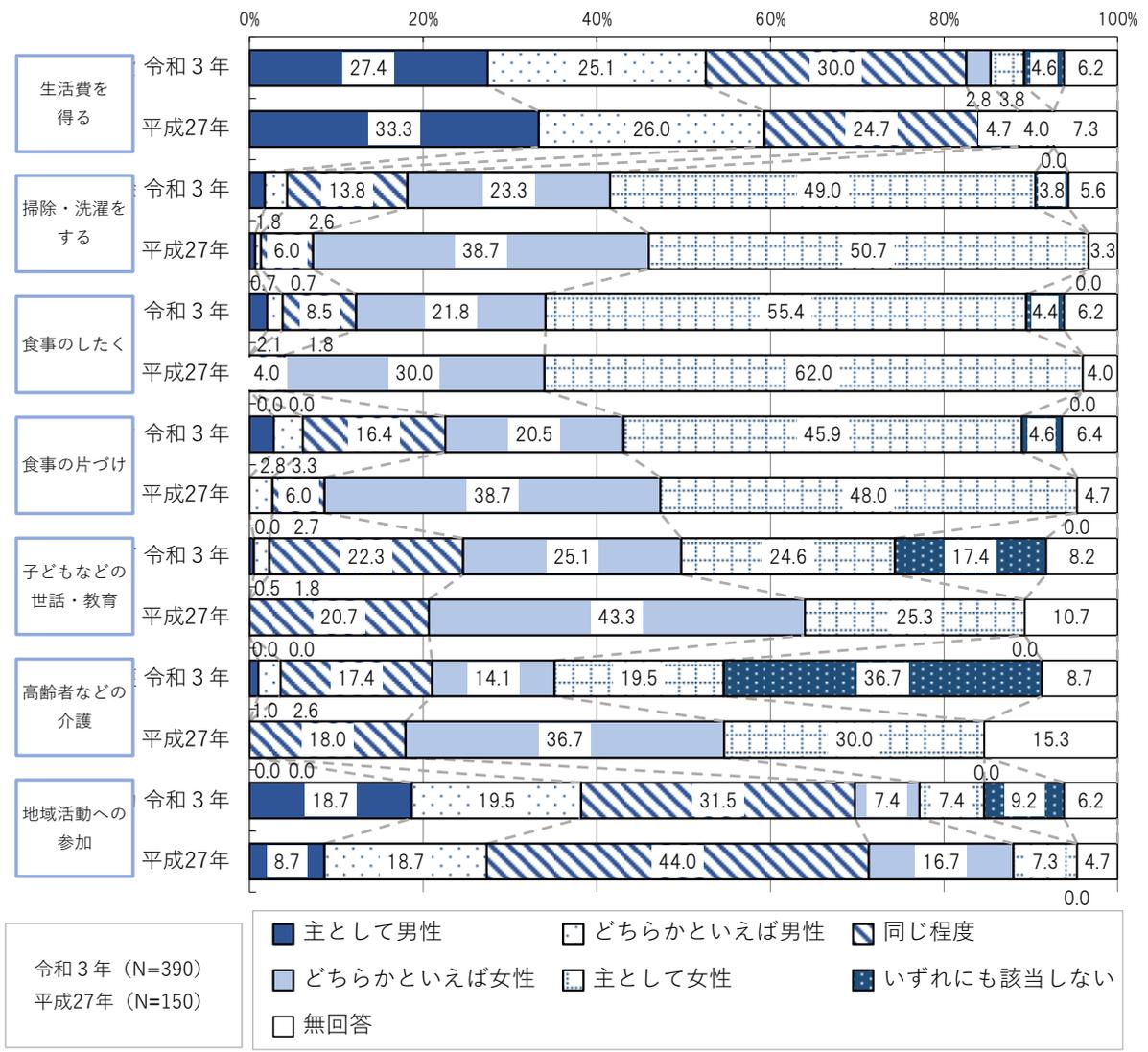
「主として男性」の担当である項目は「生活費を得る」(27.4%)と「地域活動への参加」(18.7%)が高くなっています。「主として女性」の担当である項目は「掃除・洗濯をする」(49.0%)、「食事のしたくをする」(55.4%)、「食事の片づけをする」(45.9%)が高く、「子どもなどの世話・教育」(24.6%)と「高齢者などの介護」(19.5%)も男性と比べて高くなっています。

また、男女「同じ程度」の項目は、「生活費を得る」(30.0%)、「地域活動への参加」(31.5%)が高くなっており、女性の社会進出が伺えます。

[前回調査との比較]

「主として男性」では「地域活動」が10.0ポイント増加しています。一方、「どちらかといえば女性」では「高齢者などの介護」が22.6ポイント、「食事の片づけ」「子どもなどの世話・教育」が同じく18.2ポイント、「掃除・洗濯をする」が15.4と減少しています。また、「同じ程度」では「食事の片づけ」が10.4ポイント増加し、「地域活動への参加」が12.5ポイント減少しています。

※平成27年アンケートと問4Aのカテゴリー項目に「いずれにも該当しない」はありません。



問9-B あなたは(Ⅰ)～(Ⅶ)の「家庭の仕事」は男女のどちらが主に担当すべきだとお考えですか。(Ⅰ)～(Ⅶ)の、それぞれの項目ごとに1つずつに○印)

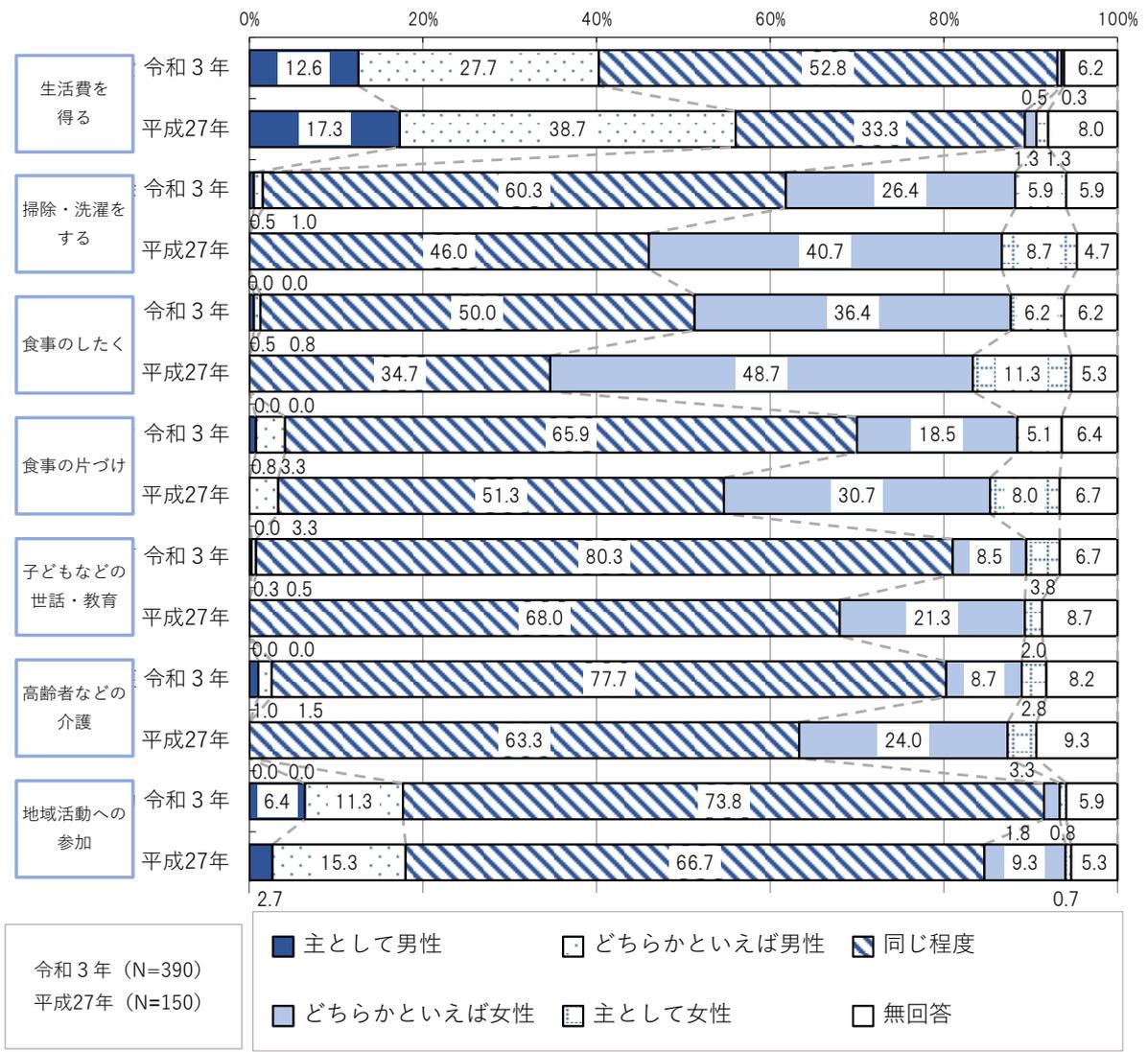
「主として男性」では「生活費を得る」(12.6%)が高く、主として女性では「食事のしたく」(36.4%)や「掃除・洗濯をする」(26.4%)が高い。また、全般にわたり男女「同じ程度」が大幅に高くなっている

全ての項目で「同じ程度」が大幅に高くなっており、特に、「子どもなどの世話・教育」(80.3%)、「高齢者などの介護」(77.7%)、「地域活動への参加」(73.8%)が高くなっています。

男女の担当として「主として」及び「どちらかといえば」については、「主として男性」では「生活費を得る」(12.6%)が高く、「どちらかといえば女性」では「食事のしたく」(36.4%)、「掃除・洗濯をする」(26.4%)が高くなっています。

[前回調査との比較]

「同じ程度」では全ての項目で増加しており、中でも「生活費を得る」が19.5ポイント、「食事のしたく」が15.3ポイント、「食事の片づけ」が14.6ポイントと大きく増加しています。一方、「どちらかといえば女性」と「主として女性」では全ての項目で減少しており、中でも「高齢者などの介護」が15.3ポイント、「掃除・洗濯をする」が14.3ポイント、「子どもなどの世話・教育」が12.8ポイントと大きく減少しています。また、「主として男性」と「どちらかといえば男性」では「生活費を得る」が減少しています。



(2) 子育てや家事に参加

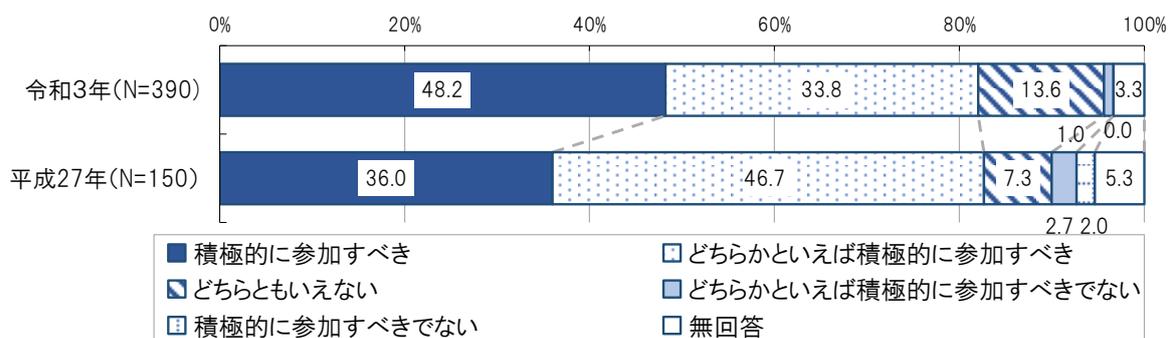
問 10 男性が子育てや家事に参加することについて、あなたはどうお考えですか。
(1つに○印)

「積極的に参加すべき」(48.2%)と「どちらかといえば積極的に参加すべき」(33.8%)を
あわせて 82.0%

男性の子育てや家事への参加については、第1位が「積極的に参加すべき」(48.2%)、次いで「どちらかといえば積極的に参加すべき」(33.8%)となっており、あわせて 82.0%となっています。

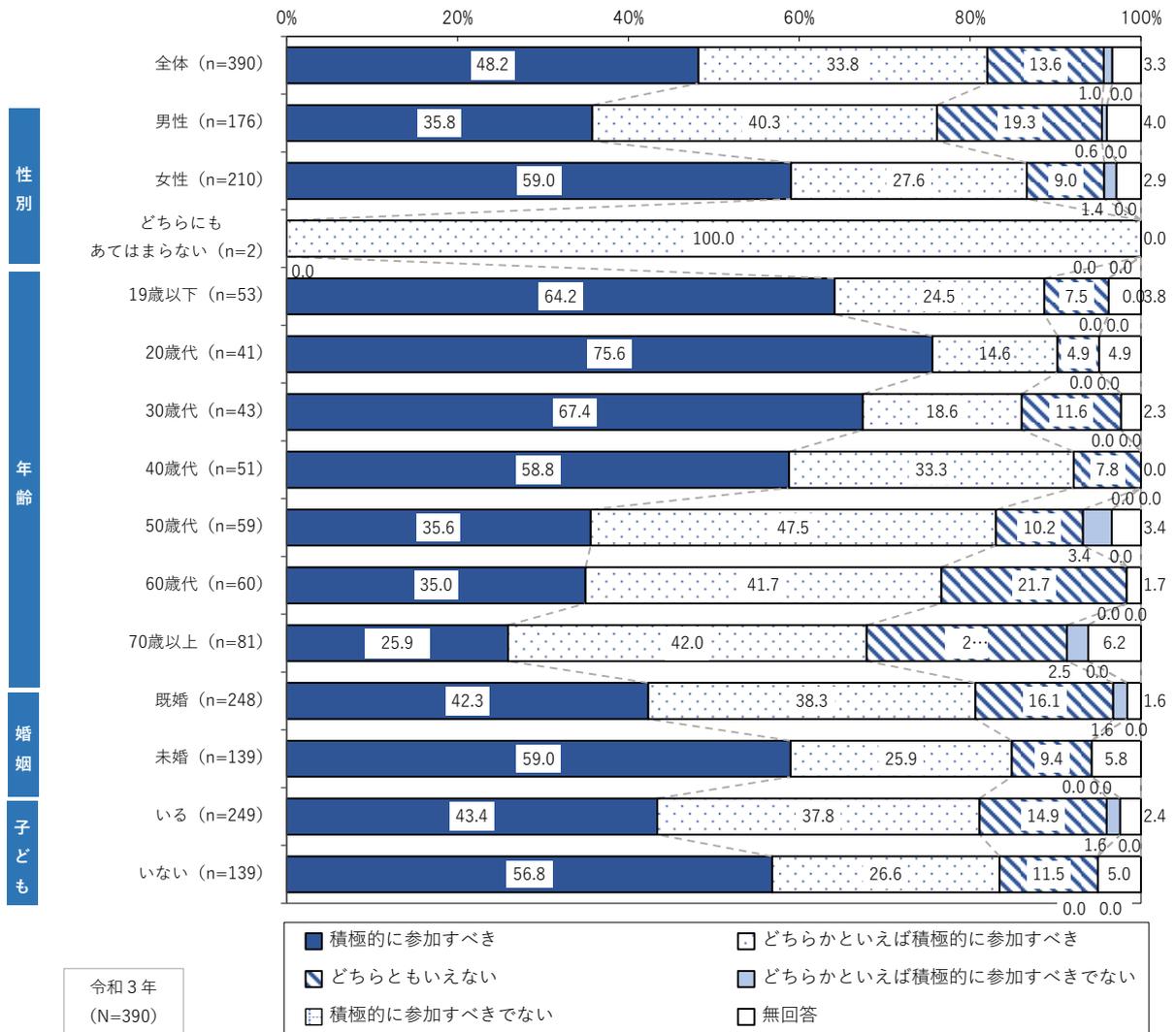
[前回調査との比較]

「積極的に参加すべき」では 12.2 ポイント増加しています。一方、「どちらかといえば積極的に参加すべき」では 12.9 ポイントと減少しています。



[回答者の属性別]

「積極的に参加すべき」について、性別で見ると「男性」(35.8%)より「女性」(59.0%)が高く、年齢で見ると40歳代以下の年齢が約6割を超え、特に「20歳代」(75.6%)が最も高くなっています。50歳代以上では概ね約3割程度でした。婚姻状況で見ると「既婚」(42.3%)より「未婚」(59.0%)が高く、子どもの有無で見ると「いる」(43.4%)より「いない」(56.8%)が高くなっています。



問 11 今後、男性と女性が共に子育てや家事へ積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(もっともあてはまるもの2つまでに○印)

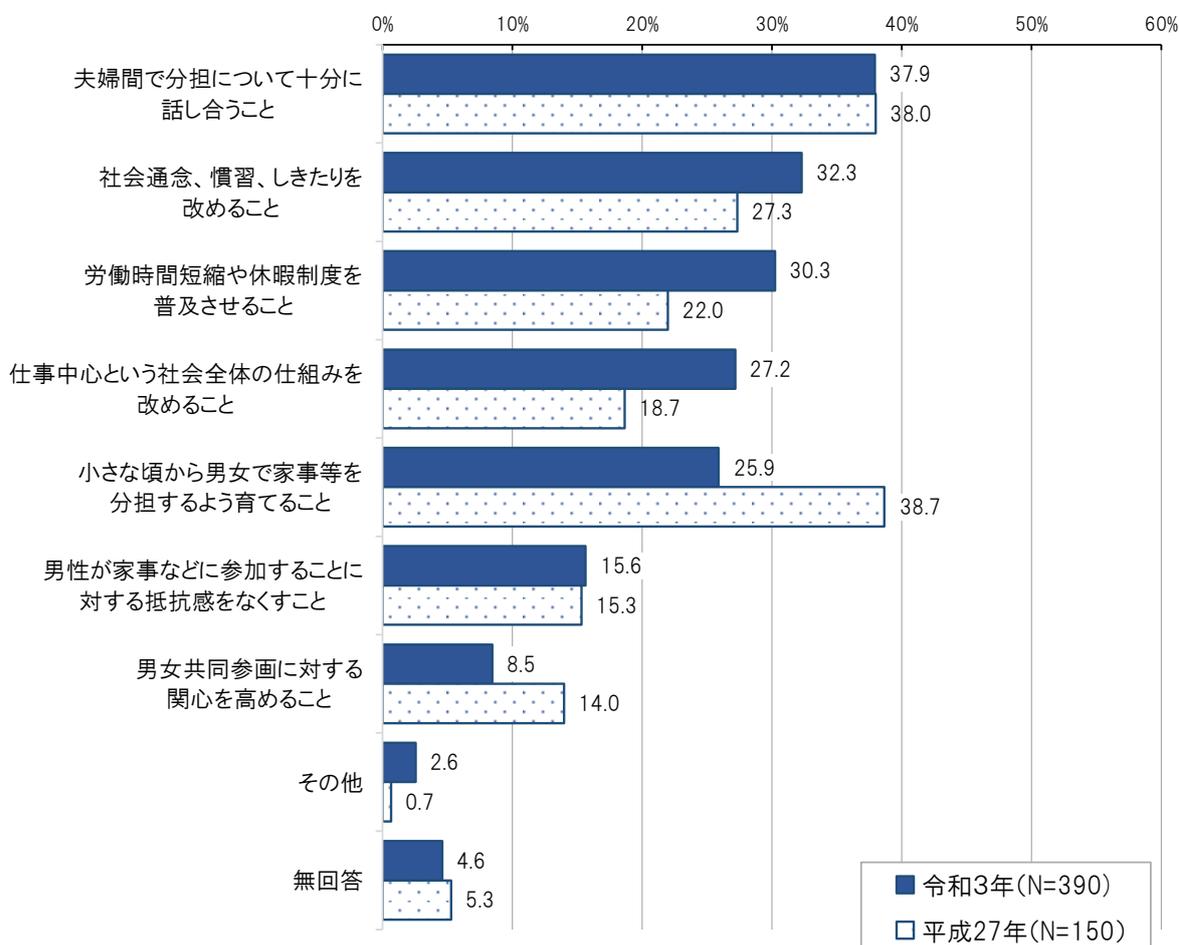
「夫婦間で分担について十分に話し合うこと」(37.9%)が第1位。次いで「社会通念、慣習、しきたりを改めること」(32.3%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(30.3%)の順

男性と女性が共に子育てや家事へ参加するために必要なことについては、第1位が「夫婦間で分担について十分に話し合うこと」(37.9%)、第2位が「社会通念、慣習、しきたりを改めること」(32.3%)、第3位が「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(30.3%)、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」(27.2%)、「小さな頃から男女で家事等を分担するよう育てること」(25.9%)などの順となっています。

各家庭で十分に話し合うことが大切であることとともに、地域などの慣習等や労働環境の改善、社会全体のシステムについて、男女が共同して家庭をつくりやすくする環境整備が求められています。

[前回調査との比較]

「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」が 8.5 ポイント、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が 8.3 ポイント増加しています。一方、「小さな頃から男女で家事等を分担するよう育てること」が 12.8 ポイントと大きく減少しています。



3 就労における男女平等について

(1) 職業

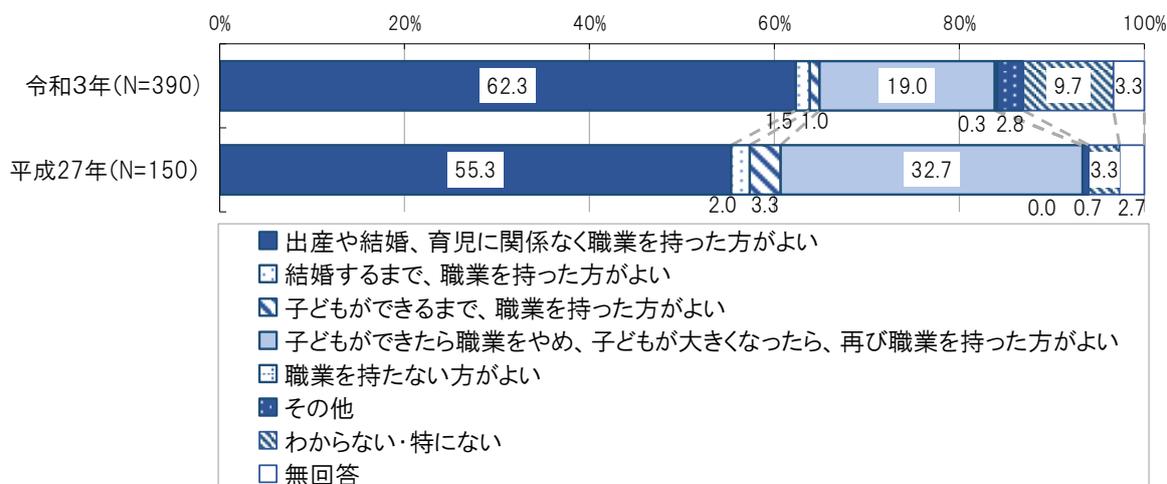
問 12 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。
(1つに○印)

「出産や結婚、育児に関係なく職業を持った方がよい」(62.3%)が第1位。次いで「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら、再び職業を持った方がよい」(19.0%)の順

女性が職業を持つことについて、第1位が「出産や結婚、育児に関係なく職業を持った方がよい」(62.3%)、第2位が「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら、再び職業を持った方がよい」(19.0%)などの順となっています。

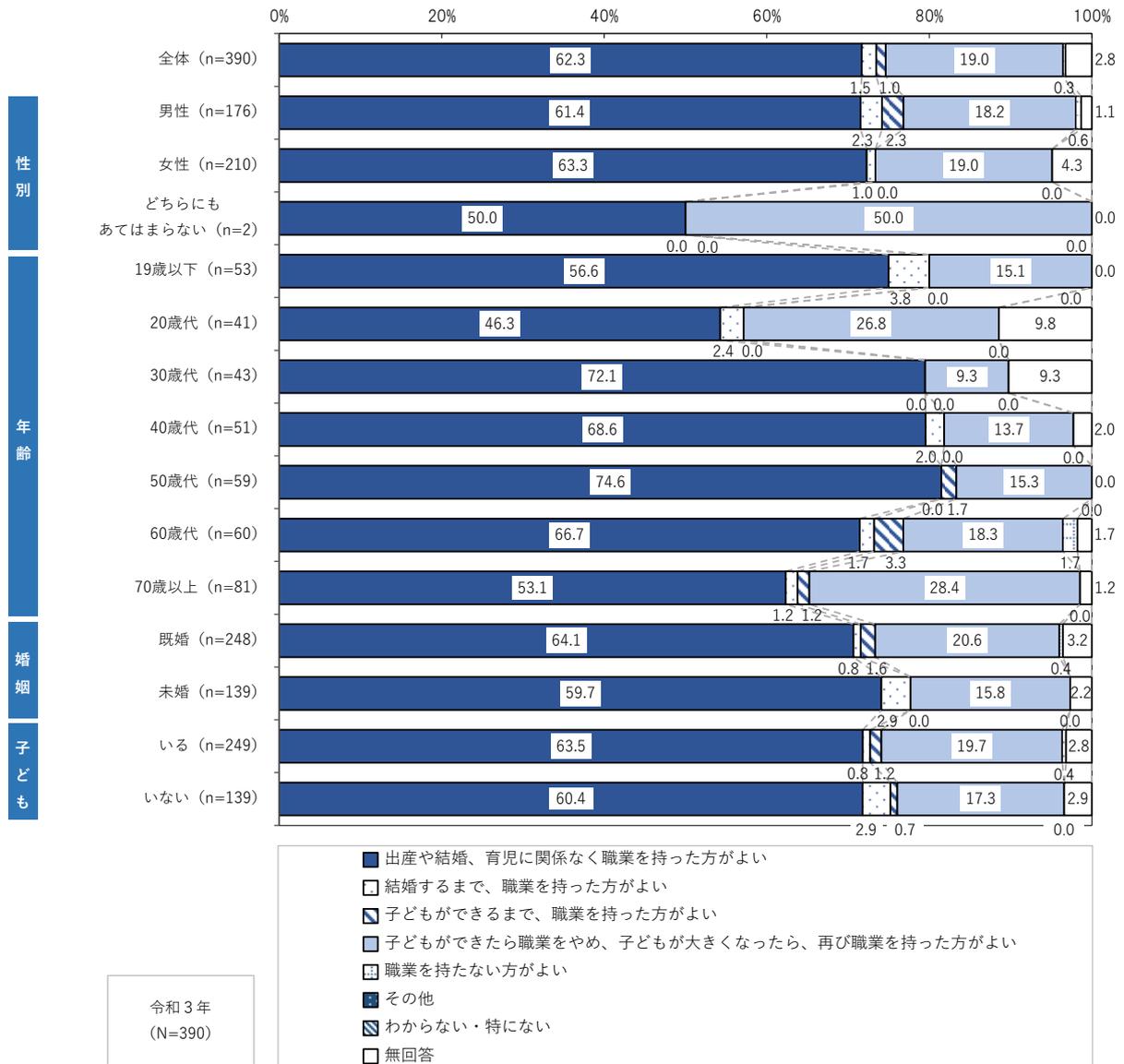
[前回調査との比較]

「出産や結婚、育児に関係なく職業を持った方がよい」が7.0ポイント増加しています。一方、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら、再び職業を持った方がよい」が13.7ポイントと大きく減少しています。また、「わからない・特にない」が6.4ポイント増加しています。



[回答者の属性別]

女性が職業を持つことについては、性別で見ると、大きな違いはありません。年齢で見ると、「30 歳代」から「50 歳代」における「出産や結婚、育児に関係なく職業を持った方がよい」が多く、一方で、「20 歳代」では「出産や結婚、育児に関係なく職業を持った方がよい」(46.3%)が最も少なく、「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら、再び職業を持った方がよい」(26.8%)が多くなっています。「70 歳以上」も「20 歳代」と同じ傾向となっています。婚姻状況や子どもの有無では大きな違いはありませんでした。



(2) 職場

問 13 一般的に、職場において企画や方針決定の場に女性が少ない傾向にありますか、その理由は何だと思えますか。(もっともあてはまるもの2つまでに○印)

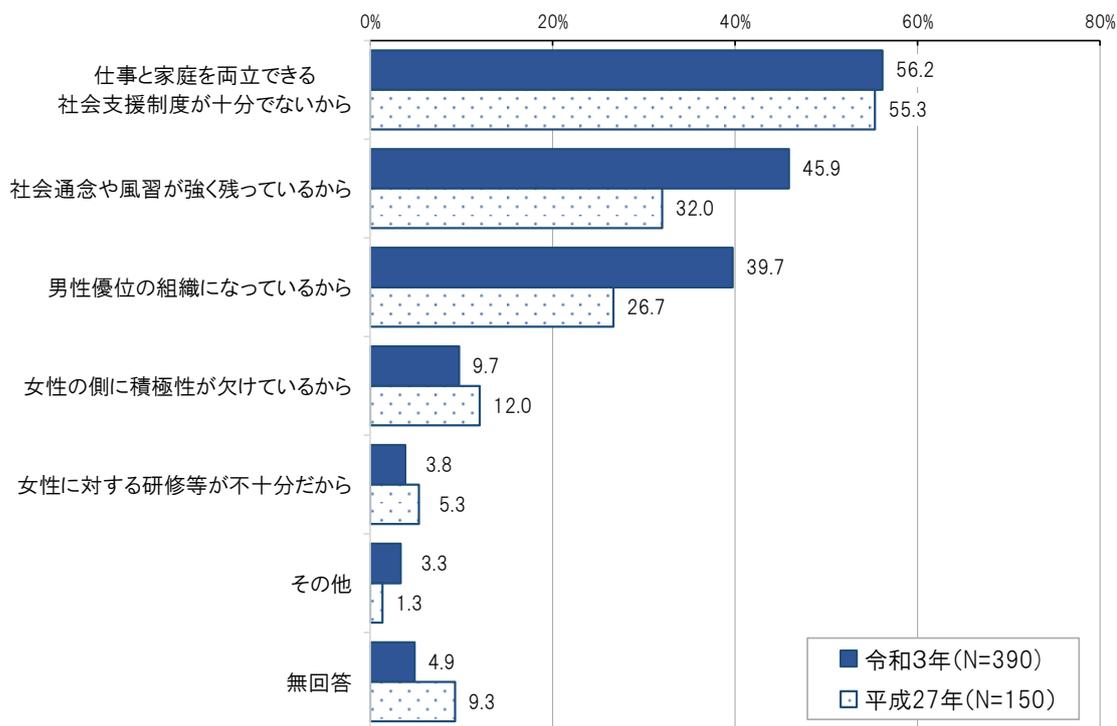
「仕事と家庭を両立できる社会支援制度が十分でないから」(56.2%)が第1位。次いで「社会通念や風習が強く残っているから」(45.9%)、「男性優位の組織になっているから」(39.7%)の順

職場において企画や方針決定の場に女性が少ない傾向にある理由については、第1位が「仕事と家庭を両立できる社会支援制度が十分でないから」(56.2%)、第2位が「社会通念や風習が強く残っているから」(45.9%)、第3位が「男性優位の組織になっているから」(39.7%)などの順となっています。

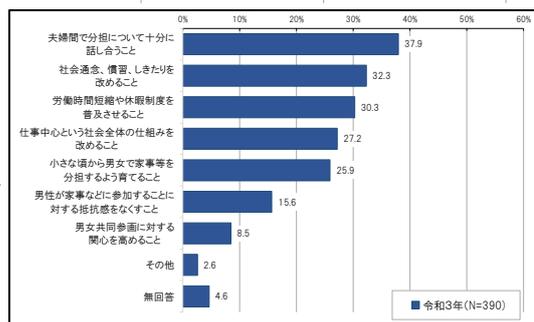
問 11 による第2位、第3位、第4位の改善(下記【参考】参照)が、男性の子育てや家事への参加のしやすさとなり、その結果として女性の職場での位置づけが変わってくると思われます。

[前回調査との比較]

「社会通念や風習が強く残っているから」が 13.9 ポイント、「男性優位の組織になっているから」が 13.0 ポイントと大きく増加しています。



【参考】問 11 今後、男性と女性が共に子育てや家事へ積極的に参加していくために必要なこと。



問 14 職場での地位について、性別による差をなくすためにはどのようなことが必要だと思いますか。(もっともあてはまるもの2つまでに○印)

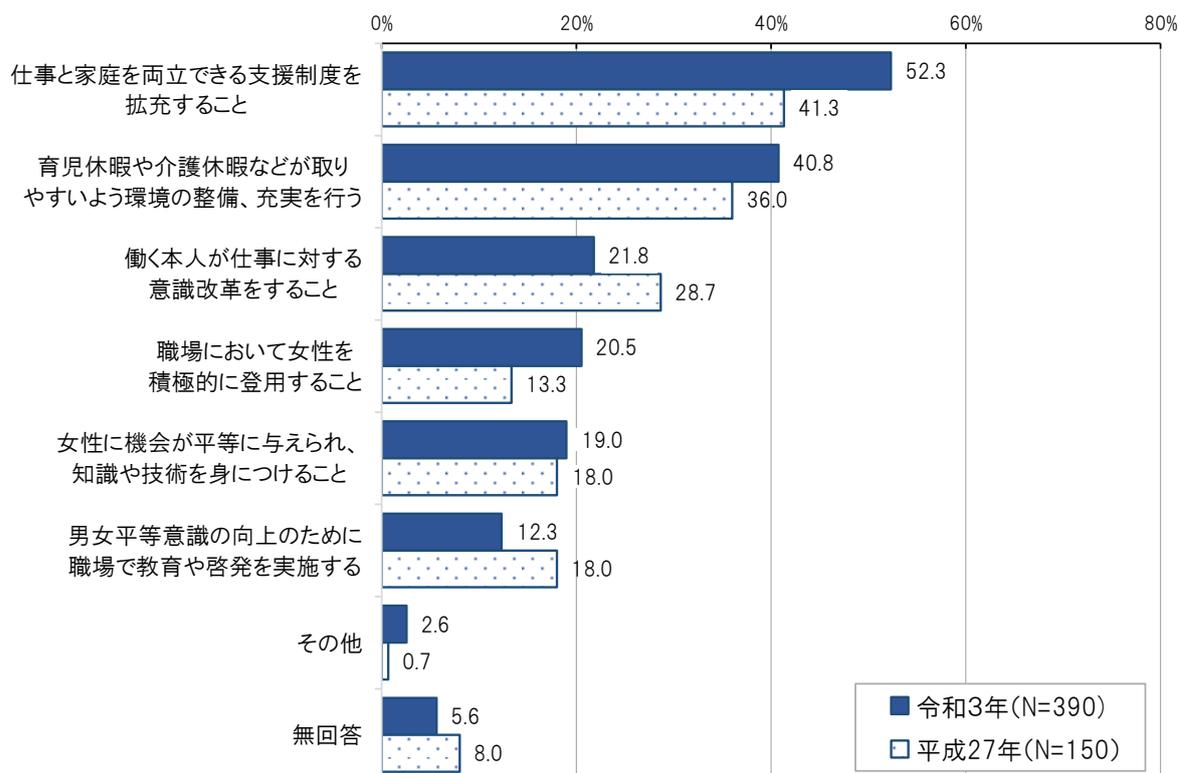
「仕事と家庭を両立できる支援制度を拡充すること」(52.3%)が第1位。次いで「育児休暇や介護休暇などが取りやすいよう環境の整備、充実を行う」(40.8%)の順

職場の地位の性別による差をなくすためには、第1位が「仕事と家庭を両立できる支援制度を拡充すること」(52.3%)、第2位が「育児休暇や介護休暇などが取りやすいよう環境の整備、充実を行う」(40.6%)などの順となっています。

第1位と第2位の内容については、特に、男性が子育てや家事ができる環境を整備することで、女性に偏りがちな子育てや介護、家事について、家庭で男女が共同することで、女性の職場での地位の向上につながるといえます。

[前回調査との比較]

「仕事と家庭を両立できる支援制度を拡充すること」が 11.0 ポイント、「職場において女性積極的に登用すること」が 7.2 ポイント増加しています。一方、「働く本人が仕事に対する意識改革をすること」が 6.9 ポイント減少しています。



[回答者の属性別]

第1位の「仕事と家庭を両立できる支援制度を拡充すること」(52.3%)と、第2位の「育児休暇や介護休暇などが取りやすいよう環境の整備、充実を行う」(40.8%)について、性別で見ると、女性の方がより回答が多くなっています。

年齢で見ると、「20歳代」では第1位も第2位も回答が多く、「30歳代」は第2位への意見が多く、「40歳代」は第1位への意見が他の年代より多くなっています。

		職場において女性を積極的に登用すること	働く本人が仕事に対する意識改革をすること	男女平等意識の向上のために職場で教育や啓発を実施する	仕事と家庭を両立できる支援制度を拡充すること	育児休暇や介護休暇などが取りやすいよう環境の整備、充実を行う	女性に機会が平等に与えられ、知識や技術を身につけること	その他	無回答
	全体 (n=390)	20.5	21.8	12.3	52.3	40.8	19.0	2.6	5.6
性別	男性 (n=176)	27.8	23.9	12.5	39.2	33.0	19.9	3.4	8.0
	女性 (n=210)	14.8	20.5	12.4	62.4	46.7	18.1	1.9	3.8
年齢	19歳以下 (n=53)	17.0	17.0	17.0	45.3	32.1	26.4	3.8	7.5
	20歳代 (n=41)	22.0	12.2	2.4	68.3	56.1	9.8	2.4	2.4
	30歳代 (n=43)	20.9	14.0	9.3	58.1	53.5	14.0	2.3	0.0
	40歳代 (n=51)	13.7	31.4	19.6	62.7	35.3	13.7	3.9	2.0
	50歳代 (n=59)	18.6	16.9	10.2	50.8	47.5	18.6	3.4	3.4
	60歳代 (n=60)	28.3	26.7	15.0	53.3	43.3	20.0	0.0	1.7
	70歳以上 (n=81)	22.2	28.4	11.1	38.3	27.2	24.7	2.5	16.0

4 仕事と家庭のバランスについて

(1) 退職、転職の理由

問 15 あなたは何らかの理由により退職や、転職をしたことがありますか？また、その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

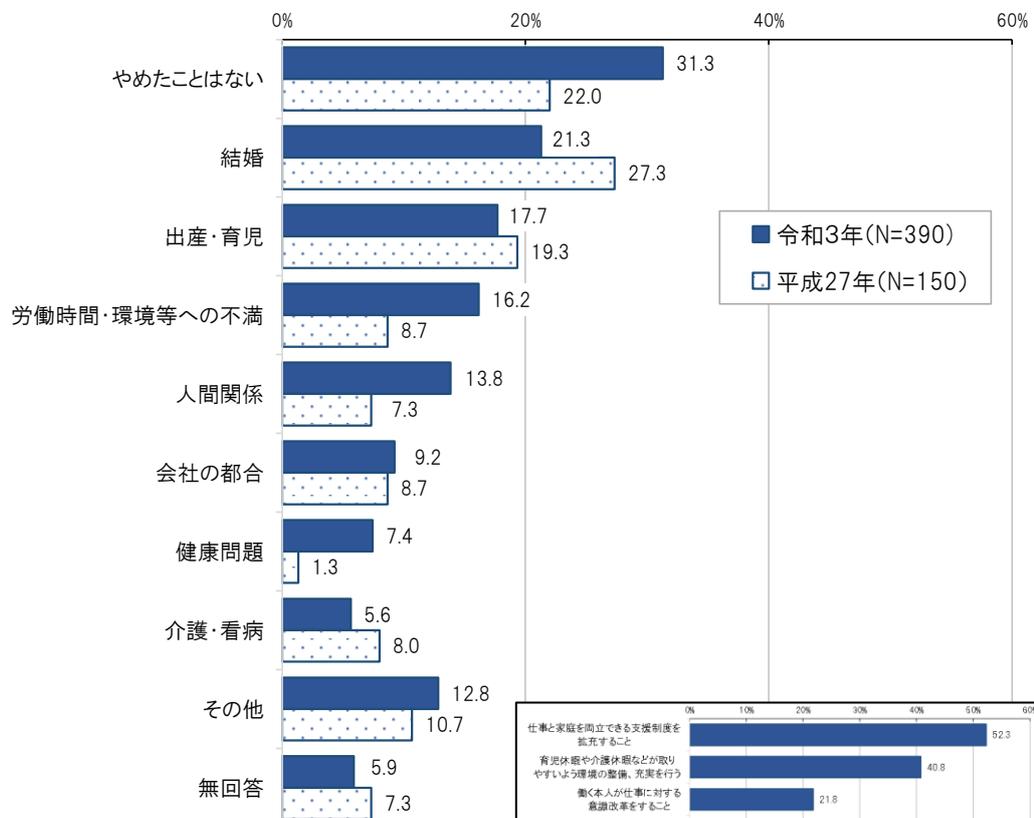
「やめたことはない」(31.3%)以外では、「結婚」(21.3%)が第1位。次いで「出産・育児」(17.7%)の順

退職や転職をした理由については、最も多かった回答は「やめたことはない」(31.3%)となっていますが、それ以外の回答では、第1位が「結婚」(21.3%)、次いで「出産・育児」(17.7%)、「労働時間・環境等への不満」(16.2%)、「人間関係」(13.8%)などの順となっています。

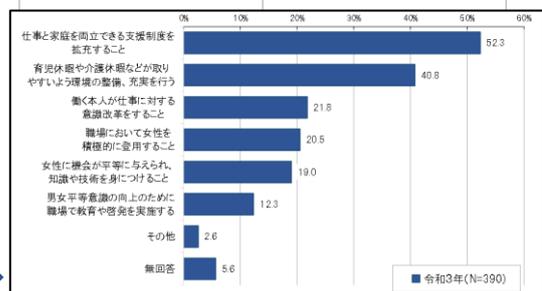
問 14 による第1位、第2位の改善(下記【参考】参照)が、仕事と家庭のバランスを生み出し、「結婚」、「出産・育児」を理由とした退職や転職をする必要のない環境につながるといえます。

[前回調査との比較]

「やめたことはない」が9.3ポイント、「労働時間・環境等への不満」が7.5ポイント増加しています。一方、「結婚」が6.0ポイント減少しています。



【参考】問 14 職場での地位について、性別による差をなくすために必要なこと。



(2) 仕事と家庭の両立

問 16 仕事と家庭を両立するためにはどのような条件整備が必要であると思いますか。
(もっともあてはまるもの 2 つまでに○印)

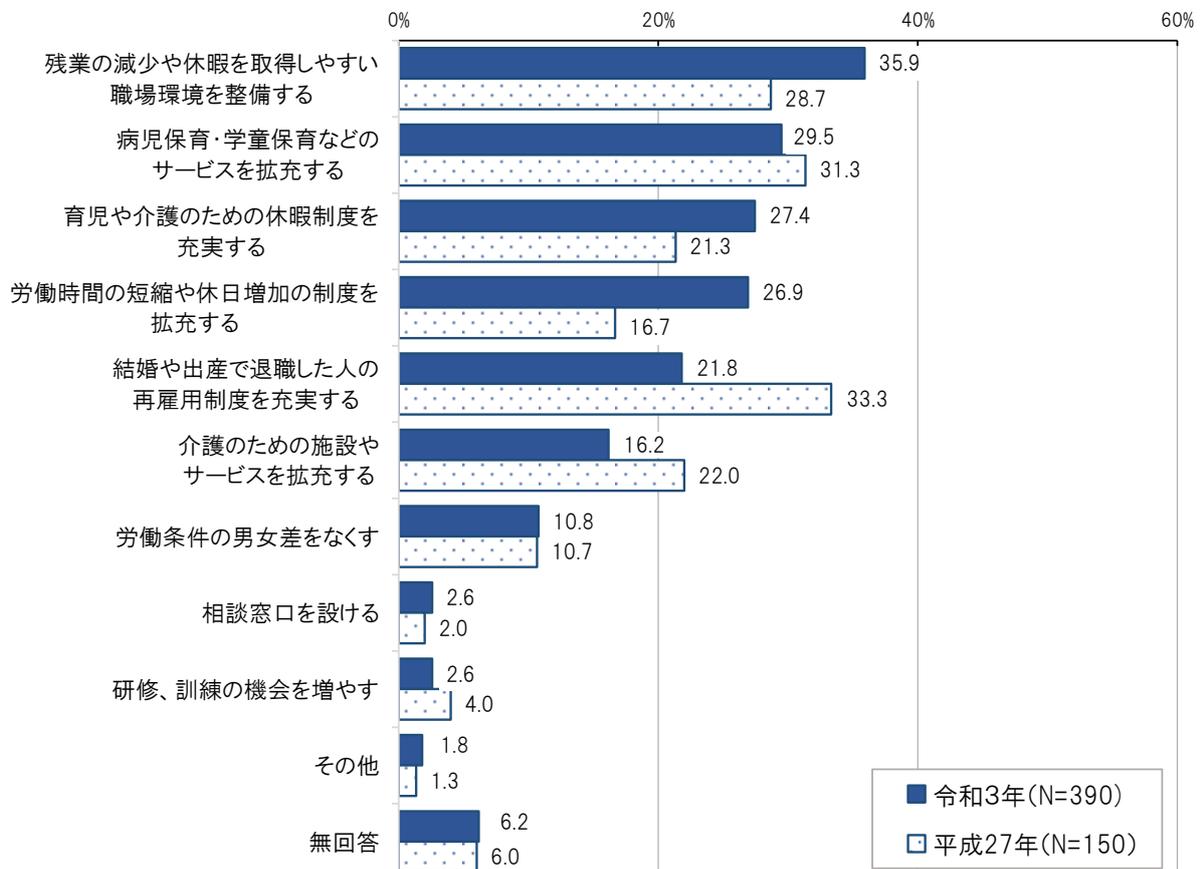
「残業の減少や休暇を取得しやすい職場環境を整備する」(35.9%)が第1位、次いで「病児保育・学童保育などのサービスを拡充する」(29.5%)の順

仕事と家庭を両立するために必要な条件整備については、第1位が「残業の減少や休暇を取得しやすい職場環境を整備する」(35.9%)、次いで「病児保育・学童保育などのサービスを拡充する」(29.5%)、「育児や介護のための休暇制度を充実する」(27.4%)、「労働時間の短縮や休日増加の制度を拡充する」(26.9%)、「結婚や出産で退職した人の再雇用制度を充実する」(21.8%)などの順となっています。

現在は、女性が子育てや家事等に関わる場合が多い環境であり、仕事と家庭の両立には、働く時間の調整のしやすい環境を望んでいるといえます。

[前回調査との比較]

「労働時間の短縮や休日増加の制度を拡充する」が 10.2 ポイント、「残業の減少や休暇を取得しやすい職場環境を整備する」が 7.2 ポイント増加しています。一方、「結婚や出産で退職した人の再雇用制度を充実する」が 11.5 ポイント減少しています。



5 セクシュアル・ハラスメント、DVについて

(1) セクシュアル・ハラスメント

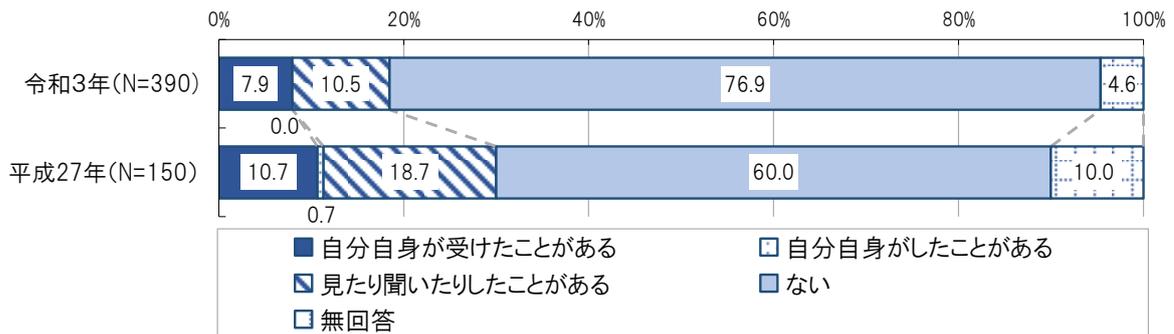
問 17 あなたの身近なところにセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)がありますか。
(1つに○印)。

「ない」(76.9%)が第1位。「自分自身が受けたことがある」は7.9%、「見たり聞いたりしたことがある」が10.5%

身近なところのセクシュアル・ハラスメントは、第1位が「ない」(76.9%)となっています。しかし「自分自身が受けたことがある」(7.9%)と「見たり聞いたりしたことがある」(10.5%)をあわせて18.4%となり、少なからずセクシュアル・ハラスメントは発生している状況となっています。

[前回調査との比較]

「ない」が16.9ポイント増加しています。一方、「見たり聞いたりしたことがある」が8.2ポイント減少しています。



【問 17 で「1. 自分自身が受けたことがある」または「2. 自分自身がしたことがある」、または「3. 見たり聞いたりしたことがある」に○をつけた方に伺います。】

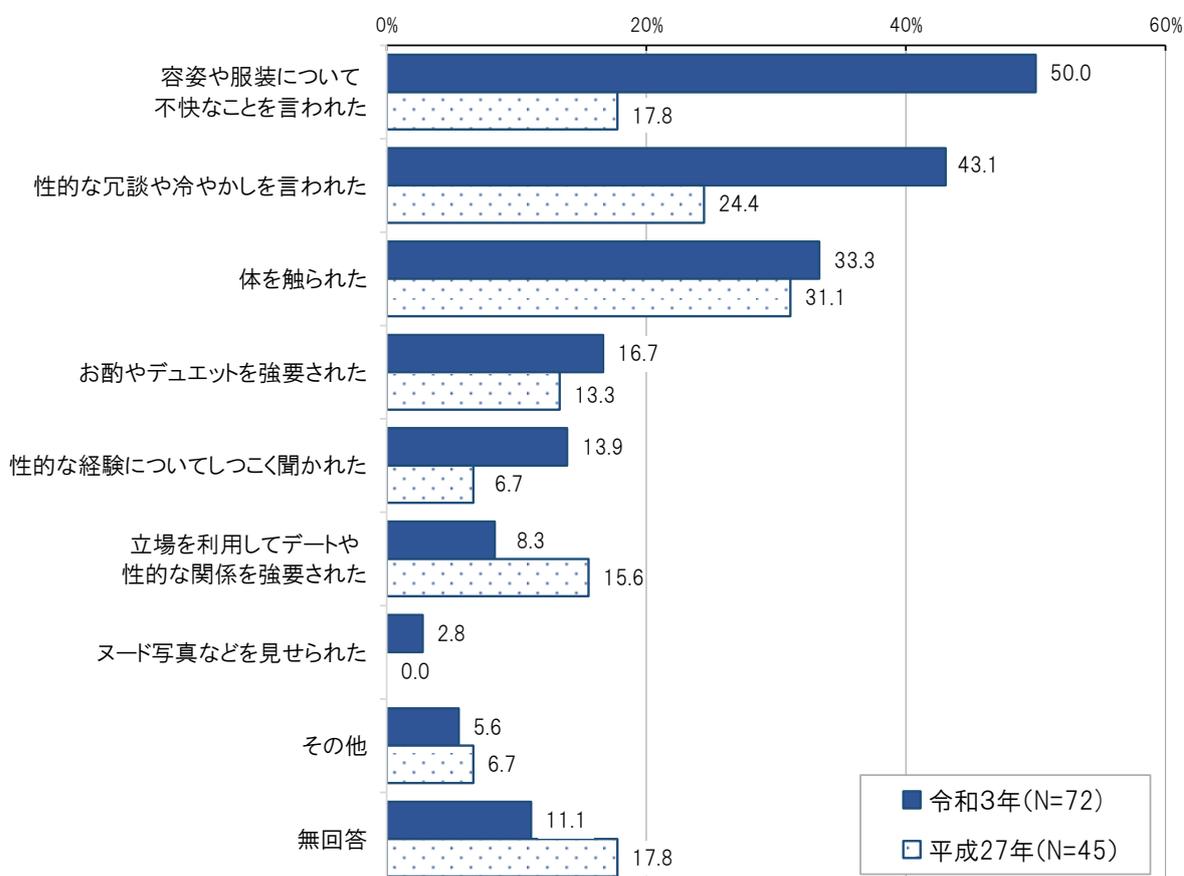
問 17-1 その内容はどのようなものでしたか。(あてはまるものすべてに○印)

「容姿や服装について不快なことを言われた」(50.0%)が第1位。次いで「性的な冗談や冷やかしを言われた」(43.1%)の順

問 17 で「1. 自分自身が受けたことがある」または「2. 自分自身がしたことがある」、または「3. 見たり聞いたりしたことがある」のいずれかに回答をした 72 名の人に、その内容を聞いたところ、第1位が「容姿や服装について不快なことを言われた」(50.0%)、次いで「性的な冗談や冷やかしを言われた」(43.1%)などの順となっており、「体を触られた」という直接的な被害も 33.3%発生しています。

[前回調査との比較]

「容姿や服装について不快なことを言われた」が 32.2 ポイント、「性的な冗談や冷やかしを言われた」が 18.7 ポイント、「性的な経験についてしつこく聞かれた」が 7.2 ポイント増加しています。一方、「立場を利用してデートや性的な関係を強要された」が 7.3 ポイント減少しています。



(2) DV(ドメスティック・バイオレンス)

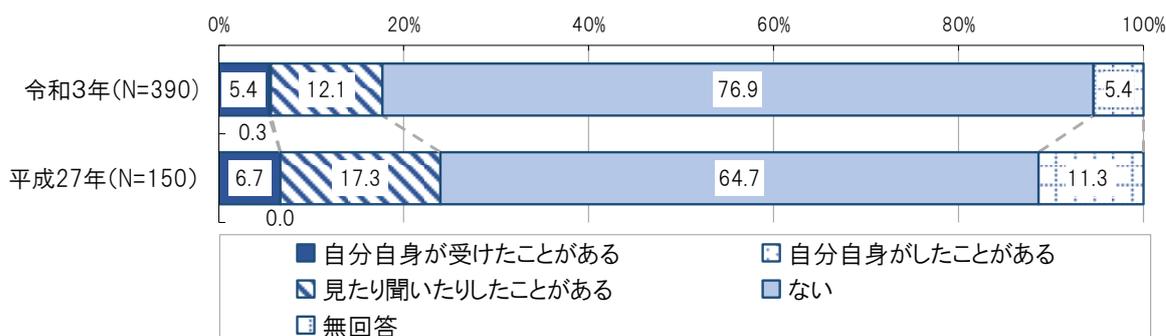
問 18 DV(ドメスティック・バイオレンス)が社会問題になっていますが、あなたの身近にこのような暴力がありますか。(1つに○印)

「ない」(76.9%)が第1位。次いで「見たり聞いたりしたことがある」(12.1%)の順

身近なところのドメスティック・バイオレンスは、第1位が「ない」(76.9%)となっています。しかし「自分自身が受けたことがある」(5.4%)と「見たり聞いたりしたことがある」(12.1%)をあわせて17.5%となり、少なからずドメスティック・バイオレンスは発生している状況です。

[前回調査との比較]

「ない」が12.2ポイント増加しています。一方、「見たり聞いたりしたことがある」が5.2ポイント減少しています。



【問 18 で「1. 自分自身が受けたことがある」または「2. 自分自身がしたことがある」、または「3. 見たり聞いたりしたことがある」に○をつけた方に伺います。】

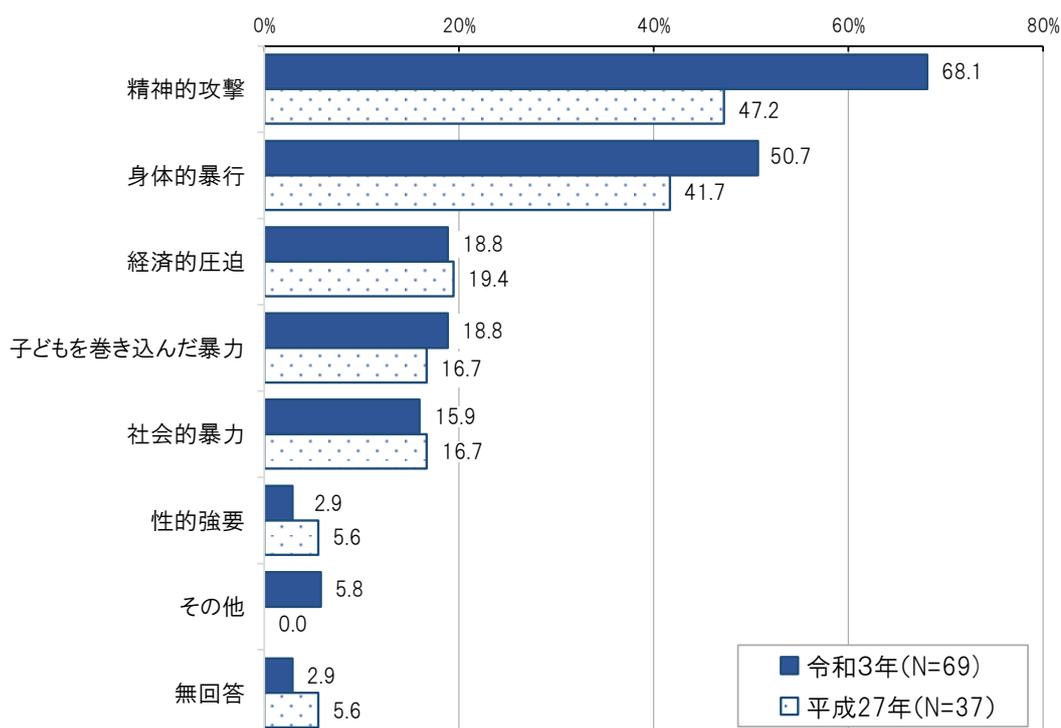
問 18-1 その内容はどのようなものでしたか。(あてはまるものすべてに○印)

大声でののしる、見下す、無視する、性別による役割を決めつける、大切にしているものを壊したり捨てたりするなど「精神的攻撃」(68.1%)が第1位。次いで「身体的暴行」(50.7%)の順。

問 18 で「1. 自分自身が受けたことがある」または「2. 自分自身がしたことがある」、または「3. 見たり聞いたりしたことがある」のいずれかに回答をした 69 名の人に、その内容を聞いたところ、第1位が「精神的攻撃」(68.1%)、次いで「身体的暴行」(50.7%)などの順となっており、身体的暴行という怪我につながる直接的な被害も 50.7%発生しています。

[前回調査との比較]

「精神的攻撃」が 20.9 ポイント、「身体的暴行」が 9.0 ポイント増加しています。



(選択肢の具体例など)

精神的攻撃	大声でののしる、見下す、無視する、性別による役割を決めつける、大切にしているものを壊したり捨てたりするなど
身体的暴行	髪をひっぱる、殴る、刃物などで脅す、家具を壊すなど
経済的圧迫	生活費を渡さない・使わせない、収入を取り上げる、就労を妨げるなど
子どもを巻き込んだ暴力	子どもの前で相手をばかにする・責める、子どもへの暴力をほのめかし脅す、親権を渡さないと脅すなど
社会的暴力	電話・メールなどをチェックする、外出や交友関係を制限するなど
性的強要	性的行為を強要する、避妊に協力しない、ポルノ雑誌やビデオを見せるなど

(3) 相談

【問 17 または問 18 で「1. 自分自身が受けたことがある」に○をつけた方に伺います。】

問 19 そのことについて誰かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○印)

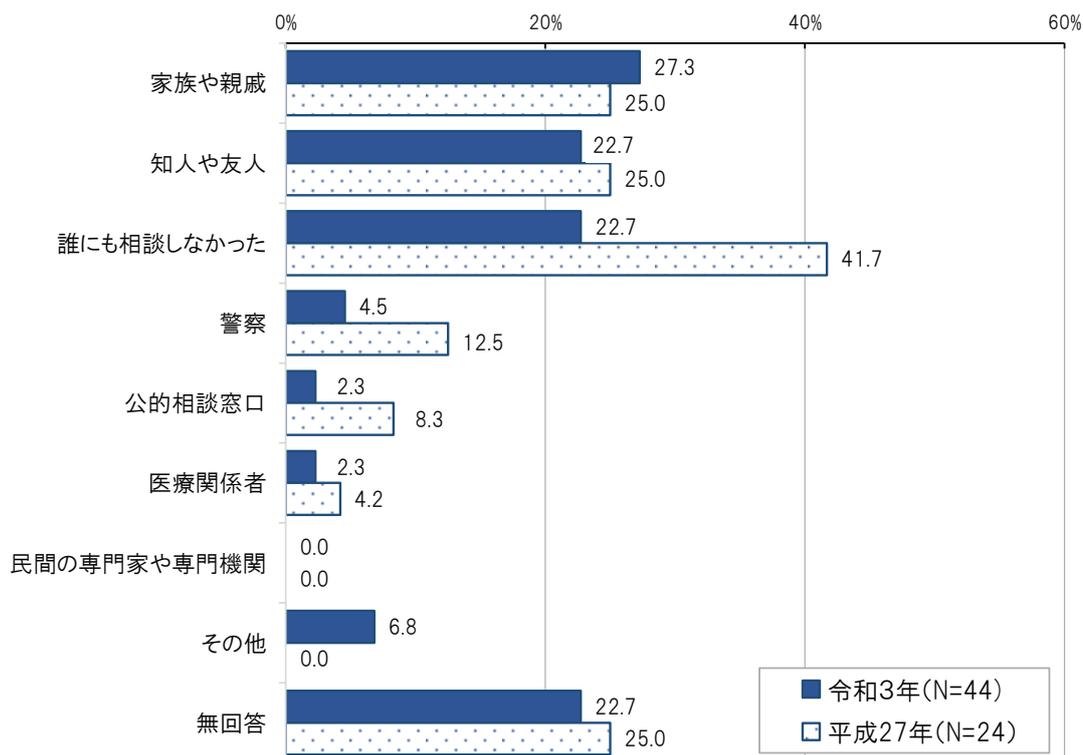
「家族や親戚」(27.3%)が第1位。次いで「知人や友人」(22.7%)と「誰にも相談しなかった」(22.7%)が同率第2位

セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスに関する相談については、第1位が「家族や親戚」(27.3%)、次いで「知人や友人」(22.7%)となっており、「誰にも相談しなかった」についても22.7%となっています。

警察など公的機関への相談は5%以下となっています。

[前回調査との比較]

「誰にも相談しなかった」が19.0ポイント減少しています。



【問 19 で「8. 誰にも相談しなかった」に○をつけた方に伺います。】

問 19-1 誰(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○印)

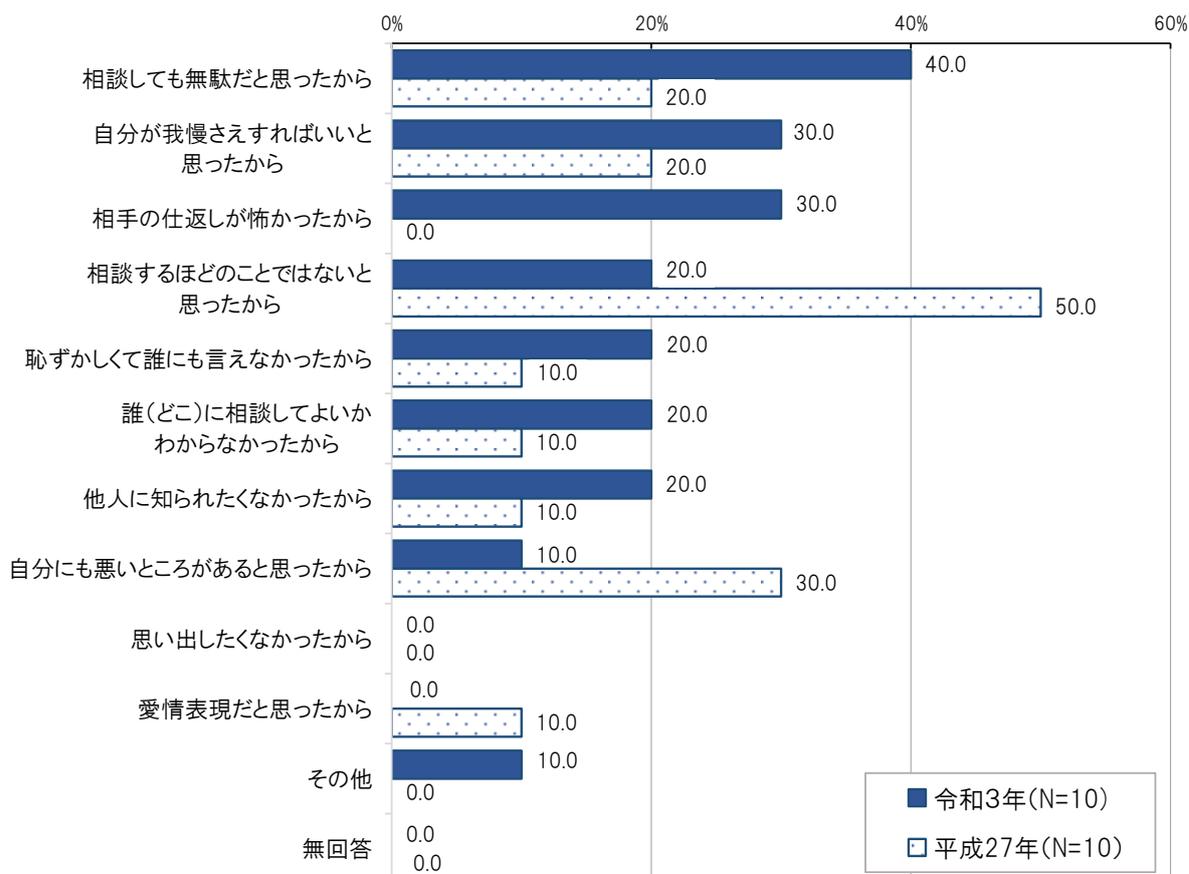
「相談しても無駄だと思ったから」(40.0%)が第1位、次いで「自分が我慢さえすればいいと思ったから」と「相手の仕返しが怖かったから」(30.0%)が同率第2位

相談しなかった理由については、第1位が「相談しても無駄だと思ったから」(40.0%)、第2位が「自分が我慢さえすればいいと思ったから」「相手の仕返しが怖かったから」(同率30.0%)などの順となっています。

(※サンプル数が少ないため参考的な結果とお考えください。)

[前回調査との比較]

「相手の仕返しが怖かったから」が 30.0 ポイント増加しています。一方、「相談するほどのことではないと思ったから」が 30.0 ポイント減少しています。



6 男女共同参画に関する行政施策等について

(1) 男女共同参画に関する行政施策

問 20 男女共同参画に関して、行政に今後どのような施策を期待しますか。

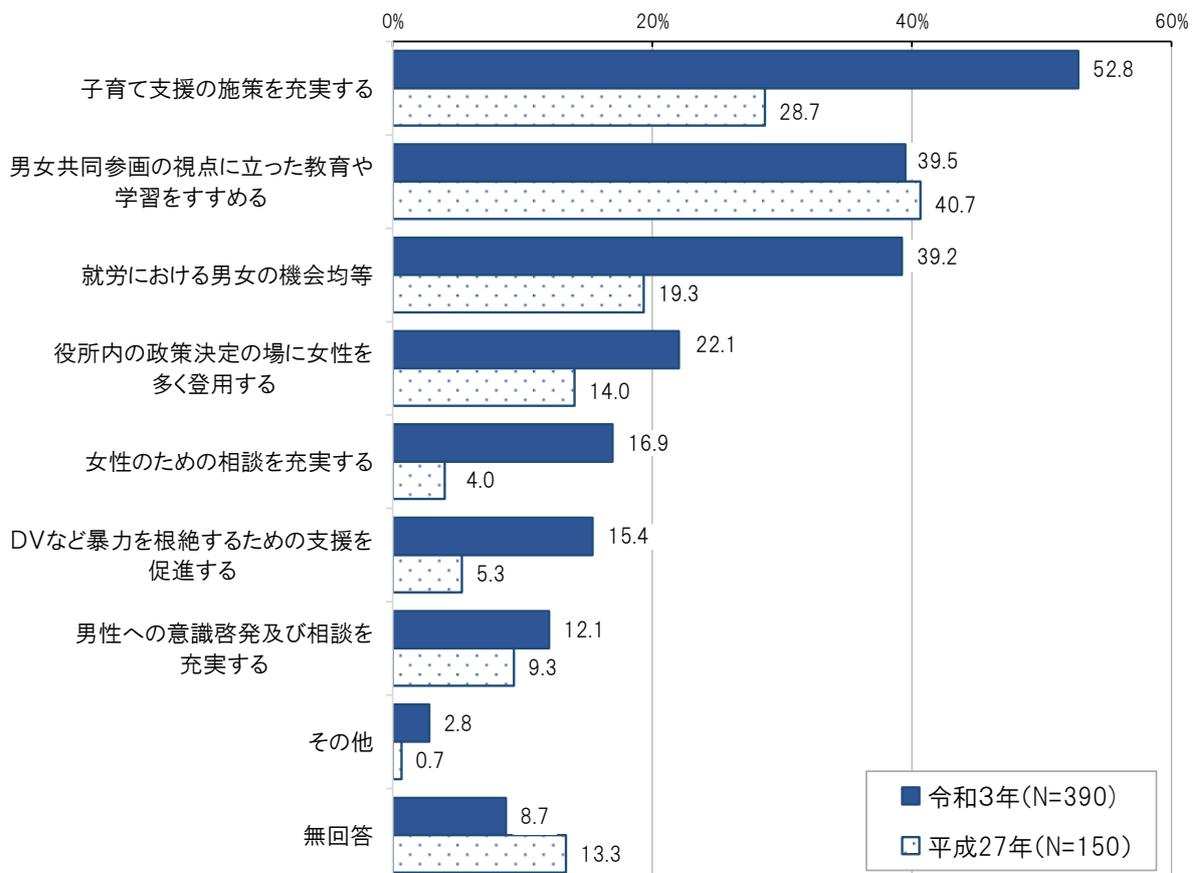
(あてはまるものすべてに○印)

「子育て支援の施策を充実する」(52.8%)が第1位、次いで「男女共同参画の視点に立った教育や学習をすすめる」(39.5%)と「就労における男女の機会均等」(39.2%)がほぼ同率第2位

男女共同参画に関して行政に期待する施策については、第1位が「子育て支援の施策を充実する」(52.8%)、第2位がほぼ同率で「男女共同参画の視点に立った教育や学習をすすめる」(39.5%)と「就労における男女の機会均等」(39.2%)などの順となっています。

[前回調査との比較]

「子育て支援の施策を充実する」が 24.1 ポイント、「就労における男女の機会均等」が 19.9 ポイント、「女性のための相談を充実する」が 12.9 ポイント、「DVなど暴力を根絶するための支援を促進する」が 10.1 ポイント増加しています。



[回答者の属性別]

第1位から第3位の項目について、性別でみると、大きな違いはありませんでした。

年齢でみると、「20 歳代」(68.3%)と「30 歳代」(69.8%)において第1位の「子育て支援の施策を充実する」が高くなっています。また、「就労における男女の機会均等」では「20 歳代」(26.8%)が低く、「60 歳代」(50.0%)が高くなっています。

共働き、核家族世帯が増加している中では、両親ともに仕事と家庭にバランスがとれた家庭を築くために、親の代わりに子どもの世話をしてもらうサービスの充実などの環境整備が必要と思われます。

		役所内の政策決定の場に女性を多く登用する	子育て支援の施策を充実する	男女共同参画の視点に立った教育や学習をすすめる	男性への意識啓発及び相談を充実する	女性のための相談を充実する	就労における男女の機会均等	DVなど暴力を根絶するための支援を促進する	その他	無回答
	全体 (n=390)	22.1	52.8	39.5	12.1	16.9	39.2	15.4	2.8	8.7
性別	男性 (n=176)	23.9	50.6	32.4	9.1	13.6	42.0	14.8	4.0	9.7
	女性 (n=210)	19.5	54.3	44.8	14.3	19.0	36.7	15.2	1.4	8.1
年齢	19歳以下 (n=53)	18.9	49.1	37.7	5.7	15.1	30.2	15.1	5.7	5.7
	20歳代 (n=41)	12.2	68.3	34.1	9.8	17.1	26.8	17.1	0.0	2.4
	30歳代 (n=43)	27.9	69.8	44.2	14.0	14.0	34.9	9.3	4.7	4.7
	40歳代 (n=51)	17.6	54.9	43.1	7.8	11.8	41.2	17.6	2.0	5.9
	50歳代 (n=59)	20.3	45.8	39.0	18.6	20.3	45.8	15.3	1.7	8.5
	60歳代 (n=60)	28.3	55.0	38.3	13.3	20.0	50.0	18.3	1.7	5.0
	70歳以上 (n=81)	24.7	39.5	39.5	13.6	17.3	39.5	13.6	3.7	21.0

IV 自由記述

IV 自由記述

自由記述一覧

問 21 男女共同参画社会の推進についてご意見がありましたら、自由にご記入ください。

(1) 現状に関すること

- ・男女がともに働きやすい職場環境が確保され、働き方の多様化が進む。
- ・子どもがいるいないで働き方が変わってくる。
- ・子どもがいるのに役付きだからということで、女性の地位上昇や残業などは難しいと思う人は多い。
- ・家庭の事情で休みをとろうとすると「主婦のお遊び程度の仕事なら会社辞めたら?」と結構きつい。
- ・「嫁」と簡単に話せない時代になった。家庭のことは、親は嫁がするものという考え方が当然。
- ・私たちの時代と違って今は男性も、仕事、家庭においても女性の仕事に協力しながらやっているのではないかと思います。

(2) 課題についての意見

- ・男性、女性の意識改革も必要となっているのではないかと思います。
- ・仕組みを変えないと変わらない(休めば給料が下がる。給料を下げなければ、フルタイム及び休日が取れない)。
- ・仕事を続けるための制度の充実(育児休暇などで抜けた人の分の仕事の負担が大きい場合の手当てなどの対応)。
- ・年長者や中心人物の考え方、動きが変わらない限り、なにを提案しても変わらない。
- ・男女共同参画のはざま世代は結構生きづらい。同等な立場で働きたいなら結婚しない方がいいのか。子どもたちには結婚を望んでいたが、そもそも結婚することが一人前と思っていたことが間違いなのか?と。
- ・個人として尊重され、平等に扱われ、自らの意思に従って自由に生きることができなければならない。権利の保障の考え方の必要性。
- ・年配の方の意識を変える(同意見2)。
- ・これからの時代を生きる方々にはぜひ各々の個性と能力を発揮して生活できる社会であってほしい。(女は子育てすればよい、仕事はやめて当然という家庭でした。社会から取り残されたようでさみしい日々でした。このような思いをする人がいなくなることを望みます)。
- ・性別の意識が過剰(同意見2)。その意識を払拭して、能力優先の社会を目指すべきではないでしょうか。

(3) 提言内容

- ・50代、60代(特に)男性への教育のやりなおしをするべき(女性も)。
- ・男は仕事、女は家庭という考えは変える。
- ・男女関係なく仕事、家事も分担し助け合い、大変さも理解する。
- ・まずは役場内から考える(何人の女性課長がいますか?)。
- ・経験として、大学生(男女)に町役場という場所を与え、学生のうちから平等に働けるをつくる。
- ・公的な場所での女性登用を増やす(何名を議会や議員に登用)。
- ・自治会役員に女性を入れるよう進める。

- ・女性議員の参入を（立候補を）。
- ・行政の各種会議への女性の積極登用（男女のバランス）。
- ・委員会の委員の委嘱について「公募方式」などを取り入れる。
- ・女性にさまざまな仕事や役職の経験を積んでもらうシステムに変えていくこと。
- ・適材適所にて、男女共同参画をする（女性が必要なところには女性を重くする）。
- ・男女共同参画社会を目指すよりも、地域の活性化や住民の地域参画についての具体的な指針をもっと活発に行うべきだと思う。
- ・問 20（男女共同参画に関して行政に期待する施策）を促進されることを希望します。
- ・ワーク・ライフ・バランス。シングルマザーへの支援。

V 資料

V 資料

調査票

町 民 意 識 調 査 ご協力のお願い

町民の皆さまには、日頃から町政について、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。ご協力をお願いします。

本調査は、「第6次久米南町振興計画（令和4年度から令和13年度まで）」及び「第3次久米南町男女共同参画基本計画（令和4年度から令和8年度まで）」の策定にあたり、町民皆さまの生活実態に関する意識、多様化する町民ニーズ、行政課題を把握するため、町が推進している施策の満足度や町政へのご意見などをお伺いし、計画策定の基礎資料とするために行うものです。

今回のアンケートをお願いする方は、久米南町にお住いの16歳以上の方々から1,000人を無作為に抽出させていただきました。（令和3年6月現在）

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解の上、率直なご意見をお聞かせください。

ご協力をよろしくお願いいたします。

令和3年7月

久米南町長 片山 篤

ご記入にあたってのお願い

1. 封筒のあて名のご本人がお答えください。
2. お答えは、設問ごとに（1つに○印）、（3つまでに○印）などそれぞれ指定されていますので、ご注意ください。
○印は、番号を囲むように濃くつけてください。（例：①.）
3. お答えいただいた内容は統計的に処理し、プライバシーにかかわる内容を公表することはありません。
4. この調査へのご回答は **7月18日（日）** までに下記のいずれかの方法でお願いいたします。

① 調査票に記入の上、同封の返送用封筒（切手不要）で返送

② スマートフォンやパソコンで回答

<https://www.gyosei-machikoe.com/kumenan/surveys/>

③ 町ホームページから回答（<https://www.town.kumenan.lg.jp>）

④ 調査票に記入のうえ、直接、役場総務企画課まで持参



5. この調査票についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

久米南町総務企画課

電話：086-728-2111（代表）

FAX：086-728-2749

E-mail：soumukikaku@town.kumenan.lg.jp

振興計画とは

振興計画は、久米南町の今の状態を把握し、将来、どのような「まち」にしていくのか、そのために誰が、どんなことをしていくのか、を総合的・体系的にまとめたものです。

この計画は町政の最も基本となる計画で、町の福祉や子育て、都市基盤や環境、産業や教育といった全ての分野について、それぞれ個別の計画の基本となるものであり、いわば、町の「まちづくりを進めていくための道しるべ」といったものです。今後は、町のさまざまな施策や事業はこの計画にもとづいて進めていくことになります。

そこで、新しい振興計画を策定するにあたっては、町民のみなさんと一緒に「あるべきまちの姿」を描き、その姿を共有し、実現に向けて共に取り組んでいける計画書にしたいと考えています。

男女共同参画とは

男女共同参画とは、私たちが持っている「男らしさ」「女らしさ」についてのイメージ・意識・考え方にとらわれずに、互いにその人権を尊重しつつ、それぞれの個性と能力を発揮するとともに、喜びも責任も共に分かち合うことです。

近年は働き方の改革や女性活躍といった社会の変化により、男女のあり方等に対する意識も変わってきていることから、この度、意識調査を行い、男女の性別にとらわれず、一人ひとりの価値観に基づいた多様な生き方が尊重され、それぞれの能力や個性をあらゆる分野で十分発揮できる、男女が共に輝いて暮らせる社会の実現を目指していくものです。



あなたご自身のことについてお伺いします。

問1 あなたご自身のことについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで1つに○印をつけてください。

(1) 性別	1. 男性 2. 女性 3. どちらにもあてはまらない
(2) 年齢	1. 19歳以下 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳以上
(3) 現在の婚姻状況	1. 既婚 2. 未婚
(4) 子どもの有無	1. いる 2. いない
(5) 世帯構成	1. 一人暮らし(単身) 2. 夫婦のみ 3. 親子(2世代) 4. 親と子と孫(3世代) 5. 4世代以上 6. その他()
(6) 居住地区	1. 弓削地区 2. 誕生寺地区 3. 竜山地区 4. 神目地区
(7) 居住歴	1. 生まれてからずっと久米南町に住んでいる 2. 久米南町で生まれたが、町以外での居住経験がある 3. 県内他市町村で生まれて、久米南町に転居してきた 4. 県外他市町村で生まれて、久米南町に転居してきた
(8) 居住年数	1. 5年未満 2. 5年以上～10年未満 3. 10年以上～20年未満 4. 20年以上
(9) 職業 (※主たるもの)	1. 農業 2. 会社員 3. 自営業 4. 公務員・団体職員 5. パート、派遣 6. 学生 7. 専業主婦(夫) 8. 無職 9. その他(具体的に:)

町の施策への満足度と重要度についてお伺いします。

問4 久米南町の現在の状況（満足度）と今後のまちづくり（重要度）についておたずねします。（（1）満足度、（2）重要度について、それぞれの項目ごとに1つずつに○印）

項目	（1）満足度					→	（2）重要度				
	久米南町の今の状況についてどう思いますか						今後のまちづくりにおける重要度についてどう思いますか				
	満 足	やや 満足	普 通	やや 不満	不 満		重 要	あ る 程 度 重 要	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 重 要 で な い	重 要 で な い
1 保健・医療・福祉分野											
1. 健康づくり対策の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
2. 医療体制の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
3. 子育て環境の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
4. 地域での支え合い活動の充実 (ボランティア、サロン等)	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
5. 高齢者福祉対策の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
6. 障害者福祉対策の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
2 生活環境・安全分野											
7. 消防・防災対策の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
8. 交通安全・防犯・消費者相談の 充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
9. 住環境の整備	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
10. 道路網の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
11. 公共交通の利便性	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
12. 情報化への環境整備	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
13. 定住対策の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
14. ごみ処理・リサイクルの充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
15. 上水道・下水道の整備	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
16. 環境保全・省エネ・景観保全への 取組	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5

項目	（１）満足度						（２）重要度				
	久米南町の今の状況についてどう思いますか						今後のまちづくりにおける重要度についてどう思いますか				
	満足	やや満足	普通	やや不満	不満		重要	ある程度重要	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない
３ 産業・観光分野											
17. 農業・林業振興への取組	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
18. 観光振興の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
19. 商工業の振興	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
20. 雇用対策の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
４ 教育・文化分野											
21. 教育環境の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
22. 生涯学習の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
23. スポーツ振興への取組	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
５ 住民参画・行財政分野											
24. 住民参画・官民協働への取組	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
25. 地域活動・外部交流の活性化	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
26. 人権尊重・男女共同参画の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
27. 広報・公聴活動の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
28. 健全な行財政運営	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
29. 広域連携の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5



町の住みやすさと地域の活性化に向けた取組についてお伺いします。

問5 これから久米南町はどのようなまちづくりを目指すべきだと思いますか。

(3つまでに○印)

1.	地域が中心となり、行政と協力して地域活動を進める町民参画・協働のまちづくり
2.	観光や産業振興を図り、経済的な発展を目指すまちづくり
3.	子育て支援や学校教育を充実し、将来の担い手を育成するまちづくり
4.	歴史や文化を活かし、生涯学習が充実した文化のまちづくり
5.	健康づくりや福祉が充実した、高齢者や障がい者等が暮らしやすいまちづくり
6.	自然を守り、ごみ処理やリサイクルが充実した環境保全のまちづくり
7.	消防・防災・防犯に優れた安全・安心のまちづくり
8.	道路や公共交通の利便性を向上し、生活環境を充実させるまちづくり
9.	移住定住を促進し、広域的な連携に取り組む交流のまちづくり
10.	情報技術やAI、ロボットなどの最先端技術を活用したまちづくり
11.	その他（具体的に： _____)

問6 生活するうえで、現在、お困りのことや不安なことはありますか。また、10年後の生活を考えたとき不安なことはありますか。

(「現在」「10年後」それぞれの項目ごとに、もっともあてはまるもの3つまでに○印)

現在	10年後	生活するうえで、不安なこと
1.	1.	近くで食料や日用品を買えない
2.	2.	近くに病院がなく、通院に時間がかかる
3.	3.	担い手不足により、地域行事等のコミュニティが成り立たない
4.	4.	管理できず、荒廃している空き家がある
5.	5.	稼業や農業などの後継者がいない
6.	6.	耕作放棄地が増加している
7.	7.	管理できず、荒廃している山林がある
8.	8.	イノシシ・鹿などの獣に田畑を荒らされる
9.	9.	台風・地震・豪雨など災害で被災のおそれがある
10.	10.	地域や学校の子どもの減少している
11.	11.	文化・芸術・スポーツ・生涯学習活動の場がない
12.	12.	自身や家族の介護が必要となる
13.	13.	地域で高齢者の一人暮らしが増えている
14.	14.	出かける時、移動手段がない
15.	15.	その他（具体的に： _____)
16.	16.	特にない

男女共同参画の考え方・感じ方についてお伺いします。

問7 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。
(1つに○印)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. わからない
4. どちらかといえば反対
5. 反対

問8 (I)～(VI)の各分野で男女が平等になっていると感じますか。
(I)～(VI)の、それぞれの分野ごとに1つずつに○印)

	男性が優遇 されている	どちらか といえば 男性が優遇	平等に なっている	どちらか といえば 女性が優遇	女性が優遇 されている	わからない
(I) 家庭	1	2	3	4	5	6
(II) 職場	1	2	3	4	5	6
(III) 政治	1	2	3	4	5	6
(IV) 学校	1	2	3	4	5	6
(V) 地域	1	2	3	4	5	6
(VI) 慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6

家庭における男女平等についてお伺いします。

問9-A あなたの家庭では現在、(I)～(VII)の「家庭の仕事」は男女のどちらが主に担当
していますか。(I)～(VII)の、それぞれの項目ごとに1つずつに○印)

	主として 男性	どちらか といえば男性	同じ程度	どちらか といえば女性	主として 女性	いずれにも 該当しない
(I) 生活費を得る	1	2	3	4	5	6
(II) 掃除・洗濯をする	1	2	3	4	5	6
(III) 食事のしたくをする	1	2	3	4	5	6
(IV) 食事の片づけをする	1	2	3	4	5	6
(V) 子どもなどの世話・教育	1	2	3	4	5	6
(VI) 高齢者などの介護	1	2	3	4	5	6
(VII) 地域活動への参加	1	2	3	4	5	6

問9-B あなたは（Ⅰ）～（Ⅶ）の「家庭の仕事」は男女のどちらが主に担当すべきだとお考えですか。（Ⅰ）～（Ⅶ）の、それぞれの項目ごとに1つずつに○印）

	主として男性	どちらかといえば男性	同じ程度	どちらかといえば女性	主として女性
（Ⅰ）生活費を得る	1	2	3	4	5
（Ⅱ）掃除・洗濯をする	1	2	3	4	5
（Ⅲ）食事のしたくをする	1	2	3	4	5
（Ⅳ）食事の片づけをする	1	2	3	4	5
（Ⅴ）子どもなどの世話・教育	1	2	3	4	5
（Ⅵ）高齢者などの介護	1	2	3	4	5
（Ⅶ）地域活動への参加	1	2	3	4	5

問10 男性が子育てや家事に参加することについて、あなたはどうお考えですか。（1つに○印）

1. 積極的に参加すべき
2. どちらかといえば積極的に参加すべき
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば積極的に参加すべきでない
5. 積極的に参加すべきでない

問11 今後、男性と女性が共に子育てや家事へ積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（もっともあてはまるもの2つまでに○印）

1. 社会通念、慣習、しきたりを改めること
2. 仕事中心という社会全体の仕組みを改めること
3. 労働時間短縮や休暇制度を普及させること
4. 夫婦間で分担について十分に話し合うこと
5. 小さな頃から男女で家事等を分担するよう育てること
6. 男女共同参画に対する関心を高めること
7. 男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくすこと
8. その他（具体的に： _____)

就労における男女平等についてお伺いします。

問12 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。
(1つに○印)

1. 出産や結婚、育児に関係なく職業を持った方がよい
2. 結婚するまで、職業を持った方がよい
3. 子どもができるまで、職業を持った方がよい
4. 子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら、再び職業を持った方がよい
5. 職業を持たない方がよい
6. その他（具体的に： _____）
7. わからない・特にない

問13 一般的に、職場において企画や方針決定の場に女性が少ない傾向がありますが、その理由は何だと思えますか。（もっともあてはまるもの2つまでに○印）

1. 社会通念や風習が強く残っているから
2. 仕事と家庭を両立できる社会支援制度が十分でないから
3. 女性に対する研修等が不十分だから
4. 女性の側に積極性が欠けているから
5. 男性優位の組織になっているから
6. その他（具体的に： _____）

問14 職場での地位について、性別による差をなくすためにはどのようなことが必要だと思えますか。（もっともあてはまるもの2つまでに○印）

1. 職場において女性を積極的に登用すること
2. 働く本人が仕事に対する意識改革をすること
3. 男女平等意識の向上のために職場で教育や啓発を実施する
4. 仕事と家庭を両立できる支援制度を拡充すること
5. 育児休暇や介護休暇などが取りやすいよう環境の整備、充実を行う
6. 女性に機会が平等に与えられ、知識や技術を身につけること
7. その他（具体的に： _____）

仕事と家庭のバランスについてお伺いします。

問15 あなたは何らかの理由により退職や、転職をしたことがありますか？また、その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

1. 結婚
2. 出産・育児
3. 介護・看病
4. 会社の都合
5. 労働時間・環境等への不満
6. 人間関係
7. 健康問題
8. やめたことはない
9. その他（具体的に： _____）

問16 仕事と家庭を両立するためにはどのような条件整備が必要であると思いますか。（もっともあてはまるもの2つまでに○印）

1. 病児保育・学童保育などのサービスを拡充する
2. 介護のための施設やサービスを拡充する
3. 結婚や出産で退職した人の再雇用制度を充実する
4. 労働時間の短縮や休日増加の制度を拡充する
5. 育児や介護のための休暇制度を充実する
6. 残業の減少や休暇を取得しやすい職場環境を整備する
7. 相談窓口を設ける
8. 労働条件の男女差をなくす
9. 研修、訓練の機会を増やす
10. その他（具体的に： _____）

セクシュアル・ハラスメント、DVについてお伺いします。

●セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)●

職場などで、相手方の意に反する性的言動によって相手方に不快感や苦痛を与える行為のこと。

●DV(ドメスティック・バイオレンス)●

配偶者や内縁関係や交際相手など親密な関係にある、又あった者や、両親・子・兄弟・親戚などの家族から受ける暴力のこと。

問17 あなたの身近なところにセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）がありますか。（1つに○印）

1. 自分自身が受けたことがある	}	問17-1へ
2. 自分自身がしたことがある		
3. 見たり聞いたりしたことがある		
4. ない	→	問18へ

【問17で「1. 自分自身が受けたことがある」または「2. 自分自身がしたことがある」、または「3. 見たり聞いたりしたことがある」に○をつけた方に伺います。】

問17-1 その内容はどのようなものでしたか。（あてはまるものすべてに○印）

1. 性的な経験についてしつこく聞かれた
2. 容姿や服装について不快なことを言われた
3. 立場を利用してデートや性的な関係を強要された
4. 体を触られた
5. 性的な冗談や冷やかしを言われた
6. お酌やデュエットを強要された
7. ヌード写真などを見せられた
8. その他（具体的に： _____）

問18 DV（ドメスティック・バイオレンス）が社会問題になっていますが、あなたの身近にこのような暴力がありますか。（1つに○印）

1. 自分自身が受けたことがある	}	問18-1へ
2. 自分自身がしたことがある		
3. 見たり聞いたりしたことがある		
4. ない	→	問20へ

【問18で「1. 自分自身が受けたことがある」または「2. 自分自身がしたことがある」、または「3. 見たり聞いたりしたことがある」に○をつけた方に伺います。】

問18-1 その内容はどのようなものでしたか。（あてはまるものすべてに○印）

1. 身体的暴行（髪をひっぱる、殴る、刃物などで脅す、家具を壊すなど）
2. 精神的攻撃（大声でののしる、見下す、無視する、性別による役割を決めつける、大切にしているものを壊したり捨てたりするなど）
3. 性的強要（性的行為を強要する、避妊に協力しない、ポルノ雑誌やビデオを見せるなど）
4. 社会的暴力（電話・メールなどをチェックする、外出や交友関係を制限するなど）
5. 経済的圧迫（生活費を渡さない・使わせない、収入を取り上げる、就労を妨げるなど）
6. 子どもを巻き込んだ暴力（子どもの前で相手をばかにする・責める、子どもへの暴力をほのめかし脅す、親権を渡さないと脅すなど）
7. その他（具体的に： _____）

【問17または問18で「1. 自分自身が受けたことがある」に○をつけた方に伺います。】

問19 そのことについて誰かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○印)

1. 知人や友人
2. 家族や親戚
3. 警察
4. 公的相談窓口(配偶者暴力相談支援センター、役所など)
5. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラーなど)
6. 医療関係者
7. その他(具体的に: _____)
8. 誰にも相談しなかった —————> **問19-1 へ**

【問19で「8. 誰にも相談しなかった」に○をつけた方に伺います。】

問19-1 誰(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1. 相談するほどのことではないと思ったから
2. 自分にも悪いところがあると思ったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 自分が我慢さえすればいいと思ったから
5. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
6. 思い出したくなかったから
7. 愛情表現だと思ったから
8. 誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから
9. 他人に知られたくなかったから
10. 相手の仕返しが怖かったから
11. その他(具体的に: _____)



男女共同参画に関する行政施策等についてお伺います。

問20 男女共同参画に関して、行政に今後どのような施策を期待しますか。
(あてはまるものすべてに○印)

1. 役所内の政策決定の場に女性を多く登用する
2. 子育て支援の施策を充実する
3. 男女共同参画の視点に立った教育や学習をすすめる
4. 男性への意識啓発及び相談を充実する
5. 女性のための相談を充実する
6. 就労における男女の機会均等
7. DVなど暴力を根絶するための支援を促進する
8. その他(具体的に： _____)

問21 男女共同参画社会の推進についてご意見がありましたら、自由にご記入ください。



自由意見についてお伺いします。

問22 あなたが久米南町で誇りに思うものや自慢できるもの、好きなところ（風土・文化・観光地・特産品など）は何ですか。自由にご記入ください。

問23 久米南町のまちづくりについてご意見がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

ご記入済のアンケートは同封の返信用封筒に入れて

7月18日（日）までに

ご投函もしくは直接、役場総務企画課までご持参、

または Web サイトにてご回答してください。

